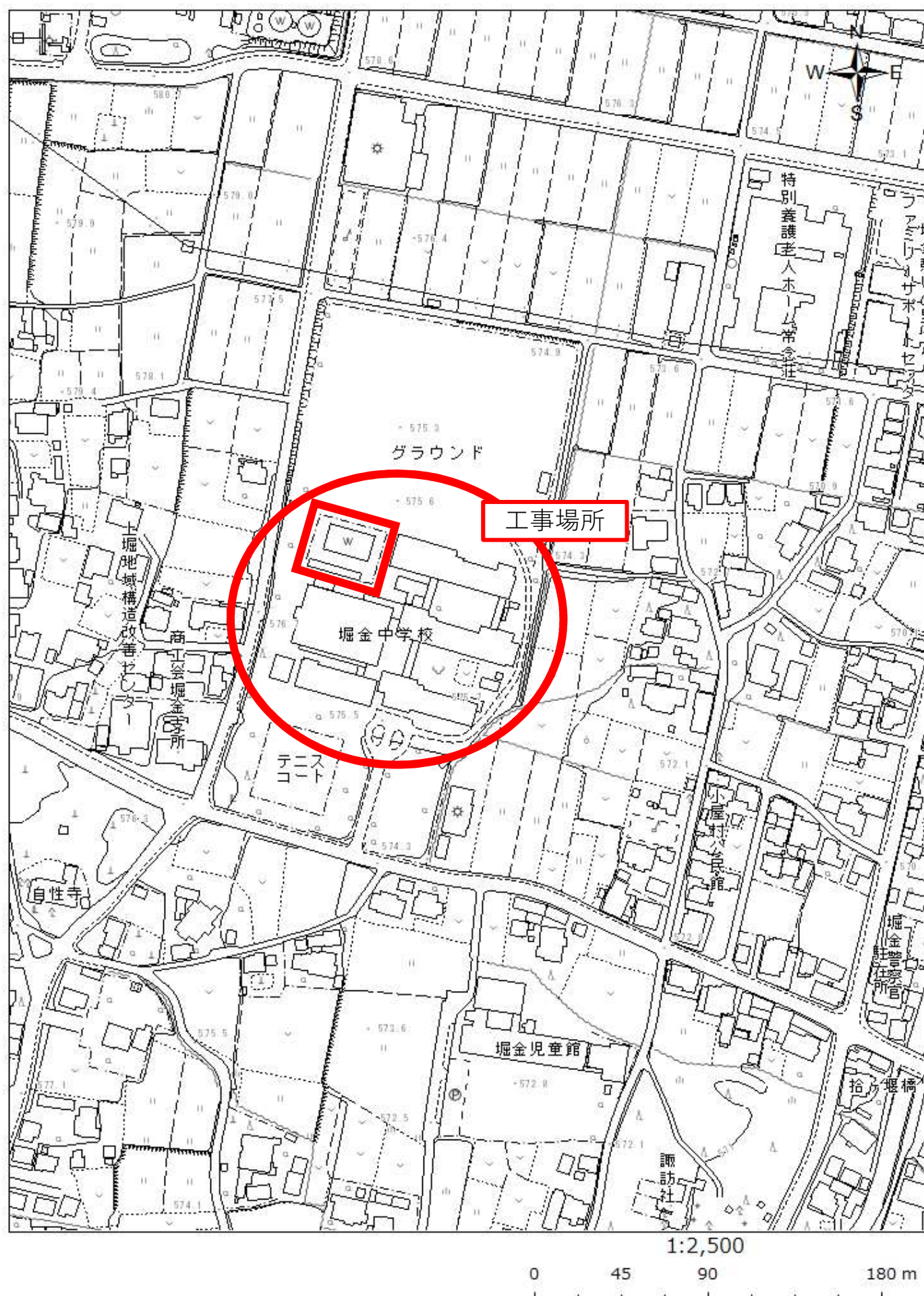


工事番号																(様式-1)	
工 事 名		令和4年度 堀金中学校 プール改修工事														設計書	
施 工 箇 所		安曇野市 堀金中学校														金抜設計書	
設 計 大 要										施 工 方 法				請 負			
<p>令和4年度 堀金中学校 プール改修工事</p> <p>■プール塗装改修工事、洗面台改修工事、プールサイド改修工事、洗体槽改修工事、目隠しフェンス改修工事</p> <p>■ろ過装置更新工事、衛生器具改修工事、上水改修工事、井水改修工事、排水改修工事</p>										施 工 期 間				日間			
										起工予定年月日				令和 年 月 日			
										竣工予定年月日				令和 5 年 3 月 13 日			
										契約保証方法				金銭的保証			
										<p>・別途指定する建設機械については排出ガス対策型の使用を原則とする。</p> <p>・この設計書で施工機械・仮設材の規格、調査条件等の記載及び「人、h、ℓ、%、日、時、工数、空m3、掛m2、日・回、日回、供用日、月」の単位により見積りのための参考数量を示したものは任意扱いです。したがって、内訳書の作成や契約を拘束するものではありません。ただし、指定した場合を除きます。</p>							

令和4年度 堀金中学校 プール改修工事
位置図



総括表

工事設計書

	名 称	数 量	単位	金 額	摘 要
	令和4年度 堀金中学校 プール改修工事	X			
A	直接工事費	1.0	式		
B	共通仮設費	1.0	式		
	純工事費				
C	現場管理費	1.0	式		
	工事原価				
D	一般管理費	1.0	式		
	工事費 計				
E	消費税	1.0	式		10.00%
	合 計				

工事設計書

	名 称	規 格	数 量	単位	単 価	金 額	摘 要
	直接工事費						
A	プール塗装改修工事		1.0	式			
B	洗眼台改修工事		1.0	式			
C	プールサイド改修工事		1.0	式			
D	洗体槽改修工事		1.0	式			
E	目隠しフェンス改修工事		1.0	式			
F	便所・更衣室改修工事		1.0	式			
G	プール給水改修工事		1.0	式			
	小 計						

工事設計書

	名 称	規 格	数 量	単位	単 価	金 額	摘 要
A	プール塗装改修工事	ステンズ製プール 25m*15m 7コース					
	プールサイド床シート養生	W=2,000 4周	180.0	m2			
	プール全面高圧水洗浄		550.0	m2			
	プール底面 既存塗装下地素地こしらえ	RB種	375.0	m2			
	仕上塗り	プールコート 4工程	378.0	m2			
	プールサイド面 既存塗装下地素地こしらえ	RB種	93.0	m2			
	仕上塗り	プールコート 4工程	93.0	m2			
	プール オーバーフロー部 糸幅 1.2m	排水溝、ポンチングメタル表裏 共					
	既存塗装下地素地こしらえ	RB種	60.0	m2			
	仕上塗り（ノンスリップ塗装）	プールコート 4工程	60.0	m2			
	プール エンド部及びスタート台	スタート台14ヶ所					
	既存塗装下地素地こしらえ	RB種	22.0	m2			
	仕上塗り（ノンスリップ塗装）	プールコート 4工程	22.0	m2			
	コースライン 7コース	W=200	165.0	m			
	妻面 エントライン	W=200	19.0	m			
	5m距離ライン	W=200	60.0	m			
	スタート台文字書き	数字文字 1台4文字	56.0	ヶ所			
	水深表示文字書き		4.0	ヶ所			
	小 計						

工事設計書

	名 称	規 格	数 量	単位	単 価	金 額	摘 要
B	洗眼台改修工事	SUS流し台 L=5.3m 2台					
	既存ステンス流し取外し費		1.0	式			
	既存下地木撤去費		1.0	式			
	撤去木材処分費		0.1	t			
	新設木下地 材料費	ヒノキ KD 材	1.1	m3			
	ワン合板 910*1820*12	T1 耐水	12.0	枚			
	下地木工事手間		1.0	式			
	防水紙張り	アスファルトR. 22 k g	16.0	m2			
	ステンス流し台再セット費		1.0	式			
	ステンス面パフ磨き費		1.0	式			
	SUSジョイント部シーリング	シリコンシーリング 10*10	22.0	m			
	小 計						
C	プールサイド インターロッキング改修工事						
	プールサイド インターロッキング 300角1列不陸調整費	レベル調整砂共	85.0	m			
	給水管敷設部 仮撤去及び再セット費	レベル調整砂共	5.4	m2			
	小 計						

工事設計書

	名 称	規 格	数 量	単位	単 価	金 額	摘 要
D	洗体槽改修工事						
	既存ステンレス槽撤去費		1.0	式			
	同上 積込み、運搬費		0.2	t			
	同上 処分費 有価物対象		200.0	kg			
	碎石充填	再生碎石	5.6	m3			
	差し筋アンカー打ち込み	φ10	46.0	ヶ所			
	鉄筋	D10 運搬・加工共	58.0	kg			
	土間コンクリート	21N t=120	1.1	m3			
	同上打設費	人力	1.1	m3			
	均しモルタルコテ押え		11.0	m2			
	防滑性塩ビシート張り		11.0	m2			
	同上 4周シーリング		16.0	m			
	小 計						

工事設計書

	名 称	規 格	数 量	単位	単 価	金 額	摘 要
E	目隠しフェンス改修工事						
	既存フェンス 支柱 角ハ°イ° 60*30*1.6 @900 H=1900						
	L=66.0m 土台 角ハ°イ° 60*45*1.6	胴縁 角ハ°イ° 60*45*1.6 5段 ハ°ネ FRP波板 H=1800					
	既存フェンス撤去費						
	FRPハ°ネ撤去費	H1.8m*L66.0m	1.0	式			
	支柱切断撤去費		75.0	ヶ所			
	撤去材積込・運搬・処分費						
	FRPハ°ネ処分費 積込み費		0.2	t			
	同上 運搬費		0.2	t			
	同上 処分費		0.2	t			
	支柱、土台、胴縁鉄材 積込み費		1.8	t			
	同上 運搬費		1.8	t			
	同上 処分費	処分は有価物対象 ヘビー H3	1.8	t			
	支柱撤去後ミル穴埋め		74.0	ヶ所			
	新設フェンス工事費						
	目隠しフェンス 材料費 H=1.64 ルーパ°タイプ°	(参) 朝日スチール工業 LV1600	66.0	m			
	現場組立施工費		66.0	m			
	支柱基礎コア抜き	φ120～φ130	38.0	ヶ所			
	支柱ミル穴埋め		38.0	ヶ所			
	小 計						

工事設計書

[illegible]

工事設計書

	名 称	規 格	数 量	単位	単 価	金 額	摘 要
G	プール給排水改修工事						
1	プールろ過機器類更新工事		1.0	式			
2	衛生器具設備改修工事		1.0	式			
3	上水設備改修工事		1.0	式			
4	井水設備改修工事		1.0	式			
5	排水設備改修工事		1.0	式			
6	産業廃棄物処理費		1.0	式			
	小 計						

工事設計書

	名 称	規 格	数 量	単位	単 価	金 額	摘 要
1	プールろ過機器類更新工事						
	ろ過機器類		1.0	式			
	ろ過機 砂式・手動 1基	能力70m ³ /h タンク1600φ*1200hss製					
	運搬、ろ材充填、試運転調整費含む	100前面配管 SGP製 採水口 圧力計					
		手動5方弁100A 自動17抜き弁					
		ろ材：710ミットS+支持砂利					
		ろ過・逆洗ポンプ 100A*1.25M ³ /MIN*15.5M					
		5.5KW 3φ200V 4P					
		SUS集毛器（アクリル製上蓋）					
	塩素供給装置 1基						
	凝集剤供給装置 1セット						
	制御盤 1面	鋼板製 屋内壁掛型					
	現場工事費						
	既存撤去処分費						
	ろ材引抜工賃	バックホー車使用	1.0	式			
	機器撤去費	機器類、配管撤去費	1.0	式			
	産廃処分費	汚泥・金属	1.0	式			
	ろ過装置基礎修繕費		1.0	式			
	ろ過装置搬入・据付費	重機使用	1.0	式			
	盤取付及び2次側電気配線工事費		1.0	式			
	機械室内配管工事費		1.0	式			
	小 計						

工事設計書

	名 称	規 格	数 量	単位	単 価	金 額	摘 要
2	衛生器具設備改修工事						
	既設和風大便器隅付ロータンク用金物撤去	S570BF用給水金物・流動金物（内外部金物共）	3.0	組			
	既設和風大便器隅付ロータンク用金物更新	S570BF用給水金物（止水栓共）・流動金物（和風大便器接続金物共）	3.0	組			
	既設小便器用フラッシュ弁撤去	T60PF	3.0	個			
	小便器用フラッシュ弁更新	TG600PL	3.0	個			
	既設吸気弁撤去	13A	1.0	個			
	吸気弁更新	13A	1.0	個			
	ポール・更衣室・便所水栓撤去	13A	22.0	個			
	ポール・更衣室・便所水栓取付	T200ESUN13C	18.0	個			
	ポール水栓取付	既存撤去品再取付	4.0	個			
	散水栓	T28KUNH13	1.0	個			
	散水栓BOX	材工	1.0	個所			
	壁取付換気扇取付	換気扇取付栓・屋外フード 既設利用 格子タイプ 250φ （参考EX-25EK8-C）	1.0	個所			
	小 計						
3	上水設備改修工事						
	ソフトシル仕切弁	JIS10K 50A	1.0	個			
	全上BOX	VC-11	1.0	個所			
	下水道料金減免用私設量水器	隔側量水器 50A 配線工事共	1.0	個			
	青銅製管端コブ付仕切弁	JIS10K 50A	1.0	個			
	全上用量水器BOX	MC-2 蓋共	1.0	個所			
	既設SUS管50A切断・接続・配管加工工事	洗体シャワー管仕切弁50A交換用	1.0	個所			
	地下式不凍栓	50A×800H	2.0	個所			

工事設計書

	名 称	規 格	数 量	単位	単 価	金 額	摘 要
	全上BOX	VC-10	2.0	個所			
	地下式不凍栓	20A x 800 H	2.0	個所			
	全上BOX	VC-6	2.0	個所			
	ステンレス仕切弁	JIS10K 50A	2.0	個			
	全上BOX	VC-11	1.0	個所			
	上水道管布設	H1VP50A 埋設	40.0	m			
	上水道管布設	H1VP20A 埋設	1.0	m			
	上水道管布設	VD75A 埋設	2.0	m			
	上水道管布設	VD50A 埋設	13.0	m			
	上水道管布設	VD20A 埋設	2.0	m			
	上水道管布設	SUS50A 屋外架空	2.0	m			
	管埋設費	H=800	1.0	式			
	管埋設費（フルサイト）	H=450	1.0	式			
	既設上水道管撤去	GP75A	2.0	m			
	既設上水管内水処理・復旧	既設上水管分岐工事時	1.0	式			
	パイプフェンス・縁石・植栽養生	配管施工部分撤去復旧	1.0	式			
	既設露出上水管塗装工事	洗面・洗眼流し上下水管	1.0	式			
	管切断 上水管分岐部	鋼管75A	2.0	個所			
	管接続 上巢管分岐部	鋼管75A	1.0	個所			
	管接続 既設上水管	鋼管50A	1.0	個所			
	既設地下式不凍栓撤去	50A	1.0	個			
	全上BOX		1.0	個所			
	小 計						

工事設計書

	名 称	規 格	数 量	単位	単 価	金 額	摘 要
4	井水設備改修工事						
	既設井水配管ﾌﾟﾗｸﾞ止め						
	既設井水管切断	鋼管50A	2.0	個所			
	井水管ﾌﾟﾗｸﾞ止	50A	1.0	個所			
	土工事						
	掘削・埋戻し・整地	手掘り	1.0	式			
	ﾌﾟｰﾙ補給井水管撤去						
	既設井水管切断	鋼管50A	2.0	個所			
	既設井水管撤去	鋼管50A	2.0	m			
	既設管路掘削・埋戻し	上水工事に計上					
	既設仕切弁撤去	50A	1.0	個			
	既設仕切弁撤去	15A	1.0	個			
	既設I7-抜弁撤去	15A	1.0	個			
	全上仕切弁BOX撤去		1.0	個所			
	全上I7-抜弁BOX撤去		1.0	個所			
	既設地下式不凍栓撤去	15A	1.0	個			
	全上BOX撤去		1.0	個所			
	既設散水栓撤去	15A	1.0	個			
	既設散水栓BOX撤去	鋳物製	1.0	個所			
	小 計						

工事設計書

	名 称	規 格	数 量	単位	単 価	金 額	摘 要
5	排水設備改修工事						
	既設排水管撤去（断熱共）	VP50A 屋外架空	4.0	m			
	既設排水管新設	VP50A 屋外架空	4.0	m			
	既設排水管撤去（断熱共）	VP50A 屋内一般	1.0	m			
	既設排水管新設	VP50A 屋内一般	1.0	m			
	既設管切断	樹脂管 50A	10.0	個所			
	既設管接続	樹脂管 50A	10.0	個所			
	ステンレス流し用排水トラップ°撤去	50A	10.0	個			
	外部洗面・洗眼流し・男女更衣室流し						
	ステンレス流し用排水トラップ°取付	50A	10.0	個			
	外部洗面・洗眼流し・男女更衣室流し						
	保温工事	50A 屋外架空	1.0	式			
	保温工事	50A 屋内露出	1.0	式			
	小 計						

工事設計書

	名 称	規 格	数 量	単位	単 価	金 額	摘 要
6	産業廃棄物処理費						
	収集・積込	金属類	0.1	t			
		塩ビ類	0.0	t			
	運搬費	金属類	0.1	t			
		塩ビ類	0.0	t			
	処分費	塩ビ類	0.0	t			
	有価物処分費	金属類 H 3	0.1	t			
	小 計						

現 場 説 明 書

安曇野市 総務部 財産管理課 施設経営担当

1 工事名称 令和4年度堀金中学校 プール改修工事

2 工事場所 安曇野市 堀金中学校

3 工事概要

プール塗装改修工事、洗面台改修工事、プールサイド改修工事、洗体槽改修工事、目隠しフェンス改修工事、男・女子便所・更衣室改修工事、ろ過装置更新工事、他改修工事一式

4 工期等

契約工期 契約日 ～ 令和5年3月13日

5 一般事項について

(1) 現場説明会

本件の内容は、現場、入札心得、入札公告、特記仕様書、設計図書、安曇野市建築工事の手引等関連する仕様書類、長野県建設工事標準請負契約約款に基づき市が定める契約書（案）及び現場説明書（以下「設計図書等」という。）によるものとし、現場説明会は実施しない。

(2) 設計図書等に対する質問及び回答について

設計図書等に関する問い合わせは、「入札公告」記載のとおりとし、入札執行が完了するまでの間、本件に関しての面談又は電話（ただし、指定の問い合わせ先は除く。）等は一切認めない。

(3) 工事費内訳書の提出

入札時の工事費内訳書提出については「入札公告」による。

6 本工事における特記事項

ア 夜間、早朝及び休日での施工を実施する場合は施設管理者と打合せを行い、監理者・監督員および施設管理者の承諾を得たのちに、必要な場合は近隣への事前通達の実施すること。

イ 学校運営への配慮事項

- ① 学校行事（準備片付も含む）の予定があるため、打合せの上、騒音等に配慮し学校運営に支障がないよう努めること。
- ② 現場引き渡しにあたり、現場引き渡し検査の前に化学物質の濃度測定を行い、結果を報告すること。
- ③ 児童・保護者及び職員の移動動線には十分注意すること。搬入路、仮設足場等は事前に、監理者・監督員および施設管理者の承諾を得たのちに施工すること。

ウ 新型コロナウイルス感染症について、協議の上対策を十分講じること。

エ 工事用地等

本工事に必要な用地は、以下のとおり。

使用目的	使用場所・面積
資材置場	敷地内
駐車場	同上敷地
現場事務所	同上敷地

~~7 本工事に関連する別途発注工事の予定~~

発注機関	工事名	工期	工事内容	備考

~~・本工事に近接・競合する工事の予定~~

発注機関				

~~・改修工事における工事個所の順番は図のとおり。~~

~~・この工事は執務並行型の工事である。~~

8 安全対策関係

① ~~交通誘導警備員~~

~~受注者が交通誘導業務を他人に委託する場合は、受託者は警備業法第4条の規定により公安委員会から警備業の認定を受けた者であること。~~

② 安全施設

発注者が想定している仮設（ゲート、仮囲い等）については、仮設計画図に示したとおり。受注者は明示された条件に基づき、自主的に工法を選定し、構造設計等必要な検討を行い施工するものとする。（任意仮設）

なお、明示した条件と現場が一致しない場合や明示されていない条件について予測することができない特別な状態が生じた場合において、必要と認められるときには設計変更の対象とする。

9 工事用道路関係

現場への工事関係車両の入退場の路線は事前に監督員と協議をすること。

10 その他

ア 火災保険等への加入について

火災保険等加入期間については、請負契約後から契約工期末日後 14 日までとする。

イ 高度技術・創意工夫・社会性に関する実施状況の提出について

請負者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、又は、地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、施工に先立ち所定の様式により提出することができる。

高度技術・創意工夫・社会性等の具体的内容がある場合は、下記の「別添様式」及

び、「説明資料」を提出すること。なお、用紙サイズはA4版とする。

特記仕様書（共通事項）

総務部 財産管理課

1. 保険等

建物（施設）引渡しまで工事受注者は、現場説明事項・施工条件明示事項に定める保険に加入しなければならない。加入期間は原則として工事着手日とし、その終期は工事しゅん工後14日以降とする。

2. 各種調査等に対する協力について

本工事について、発注者が自ら又は、発注者が指定する第三者が行う下記調査等に対して、協力しなければならない。

(1) 公共事業労務費調査等

(2) 資材調査、建設副産物実態調査等

3. 工事検査

施工途中において総務部契約検査課職員または、発注機関の長の指定する職員による抜打ち検査を実施することがあるので、検査に協力すること。

4. 被害届等

暴力団関係者から工事妨害による被害を受けた場合は、被害届を速やかに警察に提出すること。

5. 工事实績情報サービス（CORINS）の登録について

(1) 請負金額が500万円以上（税込）の工事については、工事实績情報サービス（CORINS）の登録をすること。

(2) 登録する場合は、「登録のために確認のお願い」を作成し、監督員の確認を受け、次に示す期間内に（一財）日本建設情報総合センター（JACIC）に登録の手続きを行うこと。また、登録機関発行の「登録内容確認書」が届いた場合は、速やかに監督員に提示すること。なお、変更時と完成時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提出を省略できるものとする。

① 工事受注時契約締結後10日以内

② 登録内容の変更時変更契約締結後10日以内

③ 工事完成時工事完成後10日以内

6. 施工体制台帳に係る書類について

(1) 工事受注者は、請負契約した全ての下請業者について、建設業法に定める「施工体制台帳」とそれに係る書類及び「施工体系図」を作成し、工事期間中工事現場に備え付けるとともに、その写しを監督員に提出すること。

(2) 「施工体系図」は工事関係者及び公衆の見やすい場所に掲示を行うこと。

(3) 次の業種についても請負契約に該当するため、(1)と同様とする。

- ・ 1日で完了する請負契約、少額な作業・雑工の請負契約
- ・ クレーン作業、コンクリートポンプ打設等の日々の単価契約で行っている場合
- ・ クレーン等の業種オペレーターを機械と一緒にリース会社から借上げる場合

7. 主任技術者及び監理技術者の専任について

主任技術者又は監理技術者（以下「監理技術者等」という。）が専任を求められる工事である場合、監理技術者等を専任で設置すべき期間は契約工期が基本となるが、次の期間については、専任を要しない。なお、具体的な期間については、監督員との打合せにおいて定めることとする。

- ① 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入、または仮設工事等が開始されるまでの期間）
- ② 自然災害の発生又は埋蔵文化財調査等により、工事を全面的に一時中止している期間
- ③ エレベーター等の工場製作を含む工事であって、工場製作のみが行われている期間
- ④ 工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）、事務手続、後片付け等のみが残っている期間

8. 産業廃棄物等の取扱い

- (1) 廃棄物の処理に当たっては、受注者が自ら処理（分別、保管、収集、運搬及び処分の一連の行為）をするときは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という。）に基づき、適正に行うこと。
- (2) 廃棄物の処理の全部又は一部を委託する場合は、廃棄物処理法に基づく処理を業として許可を取得している者に委託すること。また、施工前に産業廃棄物処理委託契約書の写し、産業廃棄物処理業の許可証の写し、許可運搬車両一覧並びに処分地の案内図等をまとめた「廃棄物処理計画書」を監督員に提出すること。
- (3) しゅん工した時は、廃棄物ごとに処理数量を集計し、積み込み状況の写真、処分状況の写真を添付した「廃棄物等処理報告書」を監督員に提出するとともに、マニフェストA票、B2票、D票並びにE票の原本（廃棄物の種類ごとに1セット）を提示すること。

9. 再生資源利用促進計画書等

「資源の有効な利用の促進に関する法律」（ラージリサイクル法）に基づき、受注者は、工事の着手前に「再生資源利用促進計画書」及び「再生資源利用計画書」を作成すること。

また、しゅん工後に「再生資源利用促進実施書」及び「再生資源利用実施書」を作成し、監督員に提出すること。

対象工事：ラージリサイクル法に規定する一定規模以上の工事

作成方法：COBRIS（建設副産物情報交換システム※）を利用すること。

※（一財）日本建設情報総合センター（JACIC）が提供する建設副産物の情報交換サービス

10. 安全対策関係

- (1) 工事現場においては、労働災害、公衆災害防止に努めるとともに、全作業員を対象に定期的に安全教育、研修及び訓練を行うこと。
- (2) 安全教育、研修及び訓練については、工事期間中に月一回以上実施し、この結果は工事日誌へ記録するほか工事写真等も整理のうえ提出すること。なお、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。
- (3) 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場

とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

11. 環境対策関係

- (1)現場で使用する機械は、低騒音型、低振動型、排出ガス対策型建設機械とすること。
- (2)夜間、早朝等の稼動を避けること。ただし、監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。
なお、運搬ルートを選定に当たっては影響の少ないルートを選定すること。
- (3)汚水、汚濁、土砂の流失防止に努めること。また、表土復元等環境の回復に努めること。
- (4)熱帯材合板型枠は、極力使用しないこと。

12. 過積載の禁止

- (1)工事の施工計画にあたって、施工計画書に次の事項を具体的に記載するとともに、施工時においても遵守すること。

①積載重量制限を超過しての建設発生土の処理及び資機材（以下「資機材等」という。）の積載重量の厳重チェックを行うこと。

②過積載を行っている資材等納入業者からの資機材等購入は行わないこと。

③過積載を防止するため、資機材等の購入にあたっては、納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。

④資機材等の運搬には、さし枠装着車、物品積載装置等の不正改造した車輛及び不表示車等を使用しないこと。また、同車輛からの資機材等の引き渡しを受けないこと。

⑤下請業者や資機材等納入業者を選定するにあたっては、交通安全に関する配慮に欠けた者または車輛を使用した業務等において悪質かつ重大な事故を発生させた者を排除すること。

⑥飛散の恐れがあるものについては、飛散しないような処置を行い運搬すること。

⑦土砂等の運搬に関する事業者の選定に当たっては、「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」の目的に鑑み、同法第12条の規定に基づき届け出た団体構成員の雇用に努めること。

- (2)以上の点について、下請業者についてもこれに準じ徹底すること。

13. ~~セメント及びセメント系固化材を使用した改良土について~~

~~(1)セメント及びセメント系固化材を使用した地盤改良及び改良土を再利用する場合は、六価クロム溶出試験を行い、その結果について監督員に報告する。~~

~~(2)セメント及びセメント系固化材とは、セメントを含有成分とする固化材で、普通ポルトランドセメント、高炉セメント、セメント系固化材、石灰系固化材をいい、これに添加物を加えたものを含める。~~

~~(3)六価クロム溶出試験は「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）」（以下「実施要領（案）」という。）により実施し、土壤環境基準を超えないことを確認する。~~

14. アスベスト建材使用箇所等の事前調査

- (1)石綿等による健康障害を防止するため、とりこわし、改修工事の解体及び撤去等作業前、図面・施工範囲目視、その他適切な方法によるアスベスト含有材料の有無について調査を行い、報告書を監督員に提出する。アスベスト含有材料が無かった場合においても書面にて報告を行う。

報告書の記載内容

- ① アスベスト材料の種別
- ② アスベスト形状、飛散可能性の有無
- ③ 製造所・製品名称、製造所の公表するアスベスト含有率

なお、上記調査において、アスベスト分析調査が必要な場合は別途監督職員と協議を行う。

- (2) 監督員の指示による「石綿（アスベスト）の事前調査結果」、「建築物等の解体・改修等作業に関するお知らせ」について、公衆の見やすい場所に掲示を行う。

15. 建設業退職金制度について

- (1) 工事受注者は、自ら雇用する建退共制度の対象労働者に係る共済証紙を購入し、当該労働者の共済手帳に共済証紙を貼付すること。
- (2) 工事受注者が下請契約を締結する際は、下請業者に対して、建退共制度の趣旨を説明し下請業者が雇用する建退共制度の対象労働者に係る共済証紙をあわせて購入し現物により交付すること、または建退共制度の掛金相当額を下請代金中に算入することにより、下請業者の建退共制度への加入並びに共済証紙の購入及び貼付を促進すべきこと。

~~(3) 請負代金の額が800万円以上の建設工事の請負契約を締結した時は、工事受注者は建退共制度の発注者用掛金収納書（以下「収納書」という。）を工事締結後1ヶ月以内に発注者に提出すること。なお、工事契約締結当初は工場製作の段階であるため建退共制度の対象労働者を雇用しないこと等の理由により、期限内に当該工事に係る収納書を提出できない事情がある場合又は、建退共対象労働者を使用しない場合においては、あらかじめその理由を書面により申し出ること。~~

16. 資材の市内産優先使用及び市内企業の優先採用

- (1) 工事受注者は、本工事に使用する材料については、規格・品質等の条件を満足するものについては、市内産資材を優先使用するように努めること。
- (2) 工事受注者は、工事用資材の調達に当たっては、極力市内の取扱い業者から購入すること。
- (3) 下請契約を締結する際には、市内企業の採用に努めること。

17. 再資源化及び再生資源等使用状況

工事受注者は、しゅん工時にコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、木くずの再資源化の状況、再生資源（再生クラッシャーラン、再生アスファルト・コンクリート、再生土砂）及び信州リサイクル製品の使用状況について、監督員へ報告すること。

18. レディーミクストコンクリート製造工場の選定について

受注者は、I類コンクリートの製造工場を、JISマーク表示認証工場（改正工業標準化法（平成16年6月9日公布）に基づき国に登録された民間の第三者機関（登録認証機関）により認証を受けた工場）で、かつ、コンクリート製造に係る指導及び品質管理を行う施工管理技術者（コンクリート主任技士等）が置かれ、良好な品質管理が行われている工場（全国品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等）から選定する。

ただし、これにより難しい場合は、監督員と協議する。

19. 工事進捗状況報告書

監督員の指示により、毎月の工事の進捗状況を報告書にまとめて提出する。

添付書類

- ・工事記録（工事の経過に伴う主な工事内容等の事項を記載した月報）
- ・工事打合わせ記録簿（当月分）
- ・工事写真（工事の進捗状況がわかるものを数枚）

20. 施工図等の取扱い

施工図等の著作権に関わる当該建物に限る使用权は、発注者に移譲する。

21. 設計図CADデータについて

本工事の設計図CADデータを貸与する。貸与したCADデータは、本工事の履行に必要な施工図の作成及び完成図の作成においてのみ使用することとし、それ以外の目的で使用してはならない。

22. 完成写真の著作権の権利等について

工事受注者は、完成写真の撮影者との契約にあたって、以下の事項を条件とすること。

- ① 完成写真は、市が行う事務並びに市及び市が認めた公的機関の広報に、無償で使用する
ことができる。この場合において、著作者名を表示しないことができる。
- ② 以下に掲げる行為をしてはならない。ただし、あらかじめ発注者の承諾を得た場合は、
この限りではない。
 - イ. 完成写真を公表すること。
 - ロ. 完成写真を他人に閲覧させ、複写させ、又は譲渡すること。

23. 高度技術・創意工夫・社会性に関する実施状況の提出について

受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、又は、地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、施工に先立ち所定の様式により提出することができる。

高度技術・創意工夫・社会性等の具体的内容がある場合は、「別添様式」及び、「説明資料」を提出すること。なお、用紙サイズはA4版とする。

令和4年度 堀金中学校プール改修工事

令和4年 08月

4-1

外壁改修工事
共通事項

・ポリマーセメントモルタル
ポリマーセメントモルタルの種類
合成ゴム系、アクリル系、エチレン酢ビ系等
(4.2.2)

曲げ強さ (N/mm2)	圧縮強さ (N/mm2)	接着強さ (N/mm2)		
		標準時	常温時	低温時
6.0以上	20.0以上	1.0以上	0.8以上	0.5以上

表面状態 だれの下がり量は5mm以内とし、ひび割れが発生していないこと。
透水性 表面の濡れ、水滴の付着がないこと。
均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

・ポリマーセメントスラリー
(4.2.2)

広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮)	引張接着性 (材齢28日)	曲げ性能 (材齢28日)	吸水性 (72時間)	耐久性 (劣化曲げ強さ)
3以上	3%以下	0.5N/mm2以上	5.0N/mm2以上	15%以下	5.0N/mm2以上

保水係数 0.35～0.55
粘調係数 0.50～1.00

・吸水調整材
(4.2.2)

項目	全固形分 (%)	吸水性 (g)	接着強さ (N/mm2)	界面破壊率 (%)
品質・性能	表示値±1%以内	30分間で1g以下	0.98以上	50%以上

均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

4-2

外壁改修工事
コンクリート打放し仕上げ外壁

1. ひび割れ部改修工法

※樹脂注入工法
(4.1.4) (4.3.4～4.3.6)

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	備 考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満 0.3以上～0.5未満	※50～100 ※100～200	※40 ※70	・
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	・

注入材料
(4.2.2)
※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A6024低粘度型又は中粘度型)
・
検査 (コア抜き) ※行わない
・行う (抜き取り部の補修方法:)

・ウカトシール材充てん工法
(4.1.4) (4.2.2) (4.3.5)

充てん材料	品質・規格等	備 考
・シーリング用材料	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	※行わない ・行う
・可とう性エポキシ樹脂	・	

・シール工法
(4.1.4) (4.2.2) (4.3.6)

シール材料	品質・規格等
・パテ状エポキシ樹脂	
・可とう性エポキシ樹脂	

2. 欠損部改修工法

※充てん工法
(4.1.4) (4.2.2) (4.3.7)

シール材料	品質・規格等
・エポキシ樹脂モルタル	
・ポリマーセメントモルタル	

4-3

外壁改修工事
モルタル塗り仕上げ外壁

1. 既存モルタル塗りの撤去

・行う (※全面 ・図示の範囲)

2. ひび割れ部改修工法

・既存モルタル撤去工法 (範囲は図示 撤去部分の補修は、3. 欠損部改修工法による)
(4.1.4) (4.4.2) (4.4.5)

※樹脂注入工法 (※既存モルタル面 ・既存躯体コンクリート面)
(4.1.4) (4.4.2) (4.4.5)

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (cc/m)	備 考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満 0.3以上～0.5未満	※50～100 ※100～200	※40 ※70	・
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	・

注入材料
(4.2.2)
※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A6024低粘度型又は中粘度型)
・
検査 (コア抜き) ※行わない
・行う (抜き取り部の補修方法:)

・ウカトシール材充てん工法
(4.1.4) (4.2.2) (4.3.5)

充てん材料	品質・規格等	備 考
・シーリング用材料	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	※行わない ・行う
・可とう性エポキシ樹脂	・	

・シール工法 (※既存モルタル面 ・既存躯体コンクリート面)
(4.1.4) (4.2.2) (4.4.7)

シール材料	品質・規格等
・パテ状エポキシ樹脂	
・可とう性エポキシ樹脂	

・既存塗り仕上げ材の撤去及び補修 (※シール工法の範囲 ・)
(4.4.2) (4.6.3)

3. 欠損部改修工法

既存モルタル面の欠損部
(4.1.4) (4.4.8) (4.4.9)

改修工法の種類	材 料	品質・規格等
・充てん工法	ポリマーセメントモルタル	
・モルタル塗替え工法	改修標準仕4.2.2(g)による	塗り厚25mmを超える場合の補強 ※行う ・行わない ・図示

既製目地材 ・適用する (形状 ※図示 ・)
(4.2.2)

4. 浮き部改修工法

・図示の範囲

2. ひび割れ部改修工法

※樹脂注入工法 (※既存モルタル面 ・既存躯体コンクリート面)
(4.1.4) (4.4.2) (4.4.5)

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (cc/m)	備 考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満 0.3以上～0.5未満	※50～100 ※100～200	※40 ※70	・
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	・

注入材料
(4.2.2)
※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A 6024低粘度型又は中粘度型)
検査 (コア抜き) ※行わない ・行う (抜き取り部の補修方法:)

・ウカトシール材充てん工法 (既存タイル張り撤去面)
(4.1.4) (4.2.2) (4.3.5) (4.3.6)

充てん材料	品質・規格等	備 考
・シーリング用材料	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	※行わない ・行う
・可とう性エポキシ樹脂	・	

・タイル部分強替え工法
(4.1.4) (4.2.2) (4.5.7)

接着剤の種類	品質・規格等
※ポリマーセメントモルタル	・変成シリコン樹脂 ・エポキシ樹脂 ・ポリウレタン樹脂 ・シリコン樹脂 ・タイル部分強替え工法用接着剤

・タイル張替え工法
(4.1.4) (4.5.8)
伸縮目地調整及びひび割れ誘発目地
(4.5.8) (4.5.1)
位置 ※改修標準仕4.5.1による ・図示

4. 浮き部改修工法

(4.1.4) (4.5.10～4.5.15) (表4.4.3) (表4.4.4)

改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)		フオホーピンの本数 (本/㎡)		注入口の箇所数 (箇所/㎡)		充てん量
		一般部	指定部	一般部	指定部	注入量
・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法		※1.6	※2.5	<div></div>		※2.5ml
・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法		※1.3	※2.0			※2.5ml
・アンカーピンニング全面 ポリマーセメントスラリー注入工法		※1.3	※2.0	※1.2	※2.0	※5.0ml
・注入口付アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法		※9	※1.6	<div></div>		※2.5ml
・注入口付アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法		※9	※1.6			※2.5ml
・注入口付アンカーピンニング全面 ポリマーセメントスラリー注入工法		※9	※1.6	※9	※1.6	※5.0ml
・注入口付アンカーピンニング エポキシ樹脂注入タイル固定工法		※9	※1.6	※9	※1.6	※5.0ml

アンカーピン
(4.2.2)
材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で金ネジ切り加工したもの
・

注入口付アンカーピン
(4.2.2)
材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm
・

タイルの種類
(4.2.2) (4.5.7) (4.5.8) (表4.5.3)

施工箇所	形状寸法 (mm)	磁器	せつ器	陶器	釉 薬	無釉	施 釉	役 物	色	備 考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・	・	・

役物: 標準的な曲がり (小口、標準、二丁、屏風) の役物は一体成形とする。
タイルの見本焼き ※行わない ・行う

壁タイル張りの工法
(4.5.7) (4.5.8) (表4.5.3)

外装タイル ・密着張り ・マスク張り
タイルの試験張り ※行わない ・行う

・目地及びひび割れ部改修工法
(4.1.4) (4.5.16)

・伸縮目地改修工法
(4.1.4) (4.5.16)
シーリング用材料 種類 ※改修標準仕3.7.1による

4-5

既存塗膜等の除去
及び下地処理

2. 下地調整材

3. 仕上げ塗材仕上げ

5

建具改修工事

1. 改修工法の適用
(5.1.3)

建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	適 用 箇 所
・アルミニウム製建具	・	・	※建具表による ・図示
・鋼製建具	・外部	・	※建具表による ・図示
	・内部	・	※建具表による ・図示
・鋼製軽量建具	・	・	※建具表による ・図示
・ステンレス製建具	・	・	※建具表による ・図示

・特殊な建具の仮組 (建具番号:)
(5.1.5)

・適用する ()
(5.1.7)

4. アルミニウム製建具

外壁に面する建具
(5.2.2) (表5.2.1)

種 別	耐風圧性	気 密 性	水 密 性	枠見込み (mm)	施 工 箇 所
・A種	S-4	※A-3	※W-4	※70	※図示
・B種	S-5	・	・	・	
・C種	S-6	A-4	W-5	100	

防音ドアセット ・防音サッシ ・適用する 遮音性の等級 ()
耐震ドアセット ・適用する 面内変形追随性の等級 ()
断熱ドアセット ・断熱サッシ ・適用する 断熱性の等級 ()
表面処理 ※B-1 ・B-2 (※ﾌﾗｯｸ系 ・ﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾌﾟﾚｰﾄﾞ)
(5.2.4) (表5.2.2)

屋内建具

表面処理 ※C-1 又は B-1
・C-2 又は B-2 (※ﾌﾗｯｸ系 ・ﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾌﾟﾚｰﾄﾞ)
(5.2.4) (表5.2.2)

防虫網

網の種類 ・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製 (SUS316)
形 式 ※外部可動式 ・固定式

簡易気密型ドアセットの適用は特記による
(5.3.2) (表5.3.1)
耐風圧性の適用は建具表による
特定防火設備の戸 ・適用する

簡易気密型ドアセットの適用は特記による
(5.4.2)
耐風圧性の適用は建具表による
表面仕上げ ※H仕上げ ・鉄面仕上げ
曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ (補強有り)
特定防火設備の戸 ・適用する

9. 自動ドア開閉装置

※製造所標準製作規定寸法許容差による
(5.7.2) (5.7.3) (表5.7.1～表5.7.3)

開閉方法	センサの種類
※スライディングドア ・スイングドア	・マットスイッチ ・電子マットスイッチ
性能 ・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL0-1 ・DSL0-2 ・SMD-1 ・SMD-2	※光線スイッチ ・音波スイッチ ・熱線スイッチ ・光電スイッチ ・多機能使用スイッチ

・凍結防止措置 (適用箇所は建具表による)

10. 自閉式上吊り引き戸装置

品質規格 ※改修標準仕5.8.3による ・製造所標準仕様による
(5.8.3) (表5.8.1)

11. 木製建具

かまち戸の樹脂 かまち () 鋸板 ()
ふすまの上張り ※新島の子又はビニル板程度 (押入等の裏面は除く)
(表16.6.3)
・鳥の子
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤の罽放散量の等級
(16.6.2)
※規制対象外 ・第三種

12. 建具用金物

マスターキー ・製作する ・製作しない
(5.6.4)
建具金物の種類 (5.6.2) (5.6.3) (表5.6.1) (表5.6.2)
錠前類は、シリンダー箱錠 (レバーハンドル) とする。
なお、錠前類は建具製作所の指定のものとし、監督職員の承認を受ける。
吊金物
・下番 (内部建具については、軸を鉄芯としてもよい) ・ピボットヒンジ

13. ガラス

※建具表による
(5.12.2)
・ガラスブロック積み (※図示)
ガラスブロック 品質JIS A5212によるもの
(5.12.5)

寸 法 (mm)	色 調	パターン	防火認定
	※クリア ・熱線反射 ・乳白 ・カラー ()		※無し ・有り

14. ガラス留め材及び溝

ガラス留め材
(5.12.2) (表5.12.1)

建 具 の 種 類	材 質
アルミニウム製	※シーリング材 ・ガasket (F1X部はシーリング材)
鋼製及び軽量鋼製	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。
(5.12.3)
板ガラスをはめ込む溝の大きさ
改修標準仕5.12.3以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は、(社)日本建築学会JASS17ガラス工事「3.1納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員に提出し、承認を受ける。

15. ガラス用フィルム

品質JIS A5759による

名 称	種 類	張り面	性能値
※ガラス飛散防止フィルム	第2種	※内張り ・外張り	飛散防止率 D1

16. 重量シャッター

(5.9.2) (表5.9.1)

シャッターの種類	耐風圧性能 () N/m2
・一般重量シャッター	
・外壁用防火シャッター	耐風圧性能 () N/m2
・屋内用防火シャッター	
・屋内用防煙シャッター	

閉形式 ※上部電動式 (手動併用) ・上部手動式
危険防止機構 ※障害物感知装置 (自動閉鎖型) ・シャッターの二段降下方式
一般重量シャッターのシャッターケース ※設ける ・設けない
(5.9.2)

17. 軽量シャッター

開閉形式 ※手動式 ・上部電動式 (手動併用)
(5.10.2) (表5.10.1)
スラット 材質 ※塗装溶融面鋳めつき鋼板及び鋼骨
(5.10.3)
形状 ※インターロックンギン形 ・オーバーラッピング形
(5.10.4)
ガイドレール等 ※鋼板製 ・ステンレス製SUS304 (厚さ1.5mm)
(表5.10.2)
耐風圧性能 () N/m

18. オーバーヘッドドア

(5.11.2～5.11.4) (表5.11.1) (表5.11.2)

セクション材	開閉方式	収納形式	ガイドレールの材質
※スチールタイプ	※バランス式	・スタンダード形	・溶融面鋳めつき鋼板
・アルミニウムタイプ	・チェーン式	・ローヘッド形	※ステンレス鋼板 (SUS304)
・ファイバークラスタイプ	・電動式	・ハイリフト形	・パーチカル形

耐風圧性能 () N/m

19. かざ箱

市販品 形式 ・30組用 ・60組用 ・120組用

6

内装改修工事

1. 改修範囲

既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲
※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示の範囲
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲
※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示の範囲
天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
※既存のまま ・図示の範囲

2. 既存床の撤去並びに下地補修

ビニル床シート等の除去 ※仕上げ材のみ (接着剤とも)
・下地モルタルとも (※図示の範囲 ・除去範囲全て)
合成樹脂張り床材の除去工法 ・機械的除去工法 ・目荒工法
改修後の床の清掃範囲 ※改修箇所室内 ・

3. 既存壁の撤去並びに下地補修

間仕切壁撤去に伴う他の構体造りの補修
※図示 ・モルタル塗り (塗り厚25mmを超える場合の補強 ※行う ・行わない)

4. 木下地等

木材の品質 ※改修標準仕6.5.2による ・市販品
(6.5.2) (表6.5.2) (表6.5.3)
樹種 ※改修標準仕6.5.4による (※図示の範囲)
(6.5.2) (表6.5.4)
・代用樹種を適用しない箇所 ()
保存処理木材を使用する箇所 ()

5. 集成材等

(6.5.2)

品 名	規格・品質	芯 材 の 樹 種	化粧単板の樹種
※集成材	※一般材	・たも ・なら ・しおじ	<div></div>
・構造用集成材	※1級 ・2級	・	
・造作用集成材	※1級 ・2級	・	
・化粧ばり造作用集成材	※1級 ・2級	・	

ホルムアルデヒド放散量の等級 ※規制対象外 ・第三種

6. 接着剤

接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。
(6.5.2)
※木工事に使用する接着剤
ⅴ7樹脂、ⅴ5樹脂、ⅴⅴⅴ樹脂、ⅴⅴⅴⅴ樹脂又は罽放散量の等級 (以下「ⅴ7樹脂等」という。
) を用いた接着剤の罽放散量の等級 ※規制対象外 ・第三種
※壁紙、ビニル床タイル、ビニル床シート、幅巾に使用する接着剤
(6.8.2) (6.14.2)
壁紙施工用でん粉系接着剤、ⅴ7樹脂等を用いた接着剤の罽放散量の等級
※規制対象外 ・第三種

図面名称

2022・08

工事名

A-02

令和4年度 堀金中学校プール改修工事

検 印 欄

・特殊な建具の仮組 (建具番号:)
(5.1.5)・適用する ()
(5.1.7)4. アルミニウム製建具
(5.2.2) (表5.2.1)防音ドアセット ・防音サッシ ・適用する 遮音性の等級 ()
耐震ドアセット ・適用する 面内変形追従性の等級 ()
断熱ドアセット ・断熱サッシ ・適用する 断熱性の等級 ()
表面処理 ※B-1 ・B-2 (※ﾌﾟﾗｸﾞ系 ・ﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾌﾟﾚｰﾄﾞ)
(5.2.4) (表5.2.2)屋内建具
表面処理 ※C-1又はB-1
(5.2.4) (表5.2.2)
・C-2又はB-2 (※ﾌﾟﾗｸﾞ系 ・ﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾌﾟﾚｰﾄﾞ)防虫網
(5.2.3)
網の種類 ・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製 (SUS316)
網 形 式 ※外部可動式 ・固定式簡易気密型ドアセットの適用は特記による
(5.3.2) (表5.3.1)
耐風圧性の適用は建具表による
特定防火設備の戸 ・適用する
(5.3.4)簡易気密型ドアセットの適用は特記による
(5.4.2)簡易気密型ドアセットの適用は特記による
(5.5.2)表面仕上げ ※H仕上げ ・鉄面仕上げ
(5.5.4)
曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ (補強有り)
(5.5.5)
特定防火設備の戸 ・適用する
(表5.5.1)9. 自動ドア開閉装置
(5.7.2) (5.7.3) (表5.7.1～表5.7.3)

・凍結防止措置 (適用箇所は建具表による)

10. 自閉式上吊り引き戸装置
(5.8.3) (表5.8.1)11. 木製建具
(16.6.2)
かまち戸の樹種 かまち () 鏡板 ()
みずまの上張り ※新島の子又はビニル紙程度 (押入等の表面は除く)
(表16.6.3)
・島の子
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤の単位放熱量の等級
(16.6.2)
※規制対象外 ・第三種

6

7

内装改修工事

防塵・防蟻処理

行う箇所（洗面台下地木部）
防虫処理 ※行う（※図示）
防蟻処理 ※行う（※図示）
防塵、防蟻処理の種類、品質
表面処理用木材保存（防塵、防蟻）剤は、監督職員の承諾するものとする。
クロルピリホスを含むものを添加しないこと。

8. 床板張り

フローリング及び縁甲板張り床 (表6. 5. 11)
下張り用床板
床板

9. 軽量鉄骨天井下地

10. 軽量鉄骨壁下地

11. ビニル床シート張り

12. ビニル床タイル張り

13. 帯電防止床タイル張り

14. 視覚障害者用床タイル（誘導用及び注意喚起用床材）

15. ビニル幅木

16. 合成樹脂塗床

17. フローリング張り

18. 畳敷き

19. 8'リシフトフォーム床下地材

20. カーベット敷き

21. セっこうボードその他ボード張り

22. 吸音材

23. 壁紙張り

24. モルタル塗り材料

25. 陶磁器質タイル張り

26. 断熱材

27. 浴室天井材

28. プリマコート

29. 可動間仕切

30. 移動式間仕切

31. トイレブース

32. 階段滑止め

33. 階段手すり

34. 黒板及びホワイトボード

35. 表示

36. ブラインド

37. ロールスクリーン

38. カーテン

39. カーテンレール

40. プライウッド・パネル及びパネリング

41. 天井点検口

42. 床点検口

43. 鋼製書架及び物品棚

44. くつろぎマット

45. 流し台ユニット

46. 屋内揭示板

47. 洗面カウンター

48. 収納家具

49. 防煙垂れ壁

⑦ 塗装改修工事

① 材料

② 下地調整

3. 合成樹脂調合ペイント塗り

4. 7H酸樹脂エポキシ塗り

5. 2液形8'リシフトパネル塗り

6. 7Hリシフト樹脂塗り

7. 常温乾燥形7'素樹脂エポキシ塗り

8. つや有合成樹脂エポキシペイント塗り

9. 合成樹脂エポキシペイント塗り

10. 合成樹脂エポキシ模様塗り

図面名称

工事名

種類規格等JISによる種類

市販品材質強化ビニル製（コイル状ステンレス製受枠）
ビニル製（ステンレス製受枠）
硬質アルミニウム製（受枠共）
ステンレス製（受枠共）

種類寸法(L=mm)適用内容規格・品質

流し台1200・1500・1800トラップ付き※優良住宅部品

コンロ台600・700・バックガード※有り（セクショナルキッチン1型）

つり戸棚1200・900・600

水切り棚1200・900ステンレス製※1段式※市販品

枠の材質※アルミニウム製

表面の材質※塩化ビニルシート張り

材質メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）人工大理石（仕様※図示）

奥行き(mm)約450・約600

材質

形状・寸法※図示

合板類、MDF及びHDF、パーティクルボードの放射線量の等級

※規制対象外第三種

・固定式

材質厚さ(mm)高さ(mm)備考

※網入り磨板ガラス※6. 8

・網入り磨板ガラス

アルミ製枠付

・可動式

種類材質高さ(mm)備考

垂直降下式（巻取り型）※不燃品※500・800ガイドレール

※固定式（壁埋込型）

・可動式（天井収納型）

垂直降下式鋼板製又はアルミ製※500・800表面仕上げ

※天井材張り

降下機構煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

7. 2. 2～7. 2. 7（表7. 2. 1～表7. 2. 7）

下地面の種類下地調整の種類備考

木部RA種RB種RC種

鉄鋼面RA種RB種RC種

垂れめつき面RA種RB種RC種

垂れめつき面（鋼製建具）RA種RB種RC種

モルタル、プラスチック面RA種RB種RC種

コンクリート、ALCパネル面RA種RB種RC種（2-UE）、（2-ASE）及び（2-FUE）は除く

セッコウボード、その他ボード面RA種RB種RC種

既存モルタル下地面等のひび割れ部の補修

※行わない・行う（補修範囲及び補修方法は図示）

新規鉄面の塗りの種類A種B種（7. 4. 4）（表7. 4. 2）

新規木部の塗りの種類A種B種（7. 5. 2）（表7. 5. 1）

新規鉄面、垂れめつき面の塗りの種類A種B種（7. 5. 3）（表7. 5. 2）

7. 2. 2～7. 8. 4（表7. 8. 1～表7. 8. 3）

下地の種類新規塗りの種類塗り替えの種類備考

鉄面※A種・B種A種B種

垂れめつき面※A種・B種A種B種

コンクリート及び押出成形セメント板面※A種・B種A種B種

新規鋼製建具B種（7. 9. 3）（表7. 9. 2）（表7. 9. 3）

7. 10. 2～7. 10. 4（表7. 10. 1～表7. 10. 3）

下地の種類新規塗りの種類塗り替えの種類備考

鉄面※A種・B種A種B種

垂れめつき面※A種・B種A種B種

コンクリート及び押出成形セメント板面※A種・B種A種B種

新規の塗りの種類A種B種（7. 11. 2）（表7. 11. 1）

新規の塗りの種類A種B種（7. 12. 2）（表7. 12. 1）

新規の塗りの種類A種B種（7. 14. 2）（表7. 14. 1）

塗り替えの場合

既存塗膜下地調整種類別

合成樹脂エマルジョン模様塗り※RB種※A種

※RC種※C-3種

平滑な塗料塗り※RB種A種B種

※RC種C-1種C-2種

換印欄

2022・08

A-03

[illegible]

案内図



工事場所：安曇野市 堀金中学校

工事内容

- A プール塗装改修工事
SUS製プール 25m*15m 7コース
- プールサイド床養生 シート養生 W=2m プール4周
 - 準備工事 プール全面高圧水洗浄
 - プール本体・オーバーフロー部・スタート台塗装
既存塗装面素地こしらえ RB種
仕上塗り アクリル樹脂塗装 プールコート 4工程
(参) 大同塗料 プールコートスベールAU
*オーバーフロー部、スタート台はノンスリップ仕様とする
 - ライン部塗装 W=200 アクリル樹脂塗装 プールコート
 - 文字書き塗装 同上塗料 スタート台番号 14ヶ所x4面 計56ヶ所
水深表示文字4ヶ所
- B 洗眼台改修工事
SUS流し台 L=5.3m 2台
- 既存SUS流し台取外しの上、既存木下地撤去。新規木製下地設置+アスファルトフィング、22kg品貼りの上、流し台再設置の上、SUS面バフ掛け。
*既存水栓の取外し、既存水栓 4ヶ所復旧 その他、新規水栓取付（設備工事）
- C プールサイド改修工事
- プールサイド周囲インターロッキング（300角）取外しの上、砂でレベル調整の上再設置
 - 設備給水管配管のためインターロッキング 幅900xL6000取外しの上再設置
- D 洗体槽改修工事
- 既存SUS洗体槽・手摺 撤去処分 *処分は有価物とする
 - SUS槽撤去後下地コンクリート槽内に再生砕石充填 + 土間コンクリート t 120打設（鉄筋D10タテ30@200）
ホルン差筋アンカ-D10@400）+ 均しモルタル金鍍 t 20 + 防滑塩ビシート t 2.9貼り（4周シリコンリング）
- E 目隠しフェンス改修工事
- 既存フェンス（支柱2x60x30x1.6@900 胴縁60x30x1.6@360 FRP波板面材）撤去処分
*支柱、胴縁の鋼材は有価物とする
 - 支柱切断部 モルタル穴埋め 75ヶ所
 - 新設フェンス設置 目隠しタイプ H=1.64（参）朝日スチール工業 ルーバータイプ LV1600
 - 支柱基礎 既存コンクリート擁壁コバ抜き φ120~130 38ヶ所
 - 支柱基礎 モルタル穴埋め 38ヶ所
- F 男・女子便所・更衣室改修工事
- 男女便所 室内清掃クリーニング
 - 男女更衣室目隠しカーテン更新 ビニールカーテン W1.8*H2.0 2ヶ所
- G 機械設備改修工事 設備図参照のこと
- ろ過機器更新工事
 - 既存ろ過機器類撤去処分 ろ過機は内部解体の上撤去
 - 新設ろ過機器類設置 ろ過機・滅菌機・制御盤・配管仕様は設計図仕様書による
 - 衛生器具設備改修工事
 - 便所小便器フラッシュ弁更新・大便器タンク接続配管更新・洗眼台水栓取外しの上新規水栓取付・散水栓 1ヶ所新設
 - 上水設備改修工事
 - 私設量水器設置・上水道管布設・便所、更衣室止水栓取替 詳細は設計図参照 ・洗眼台給水管保温新設
 - 井水設備改修工事
 - 既設井水のプール給水配管プラグ止め（敷地南西角 井水ポンプ部） プール部井水配管撤去
 - 排水設備改修工事
 - 排水管 既存撤去及び新設 ・洗眼流し台、更衣室手洗い台トラップ 既存撤去及び新設 ・洗眼台配管保温新設
 - 換気扇設備工事
 - 男子便所外壁の既存換気孔に換気扇取付

工事名

令和4年度 堀金中学校プール改修工事

図面名称

案内図・工事内容

SCALE

NON

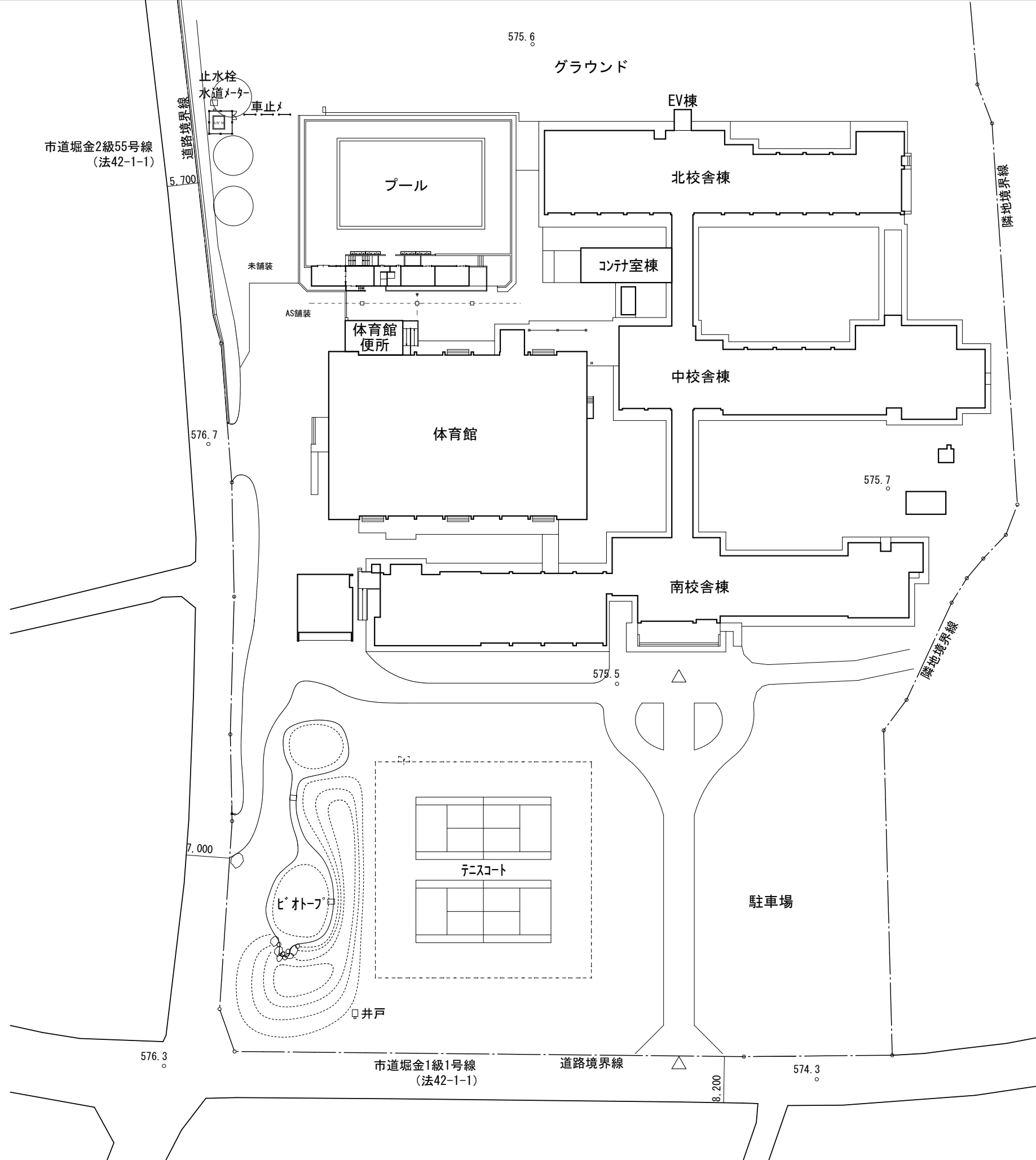
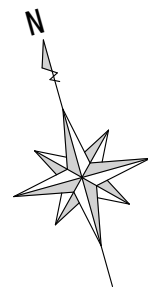
DATE

2022.08

担当

NO

A-05



工事名

令和4年度 堀金中学校プール改修工事

図面名称

配置図

SCALE

1/750

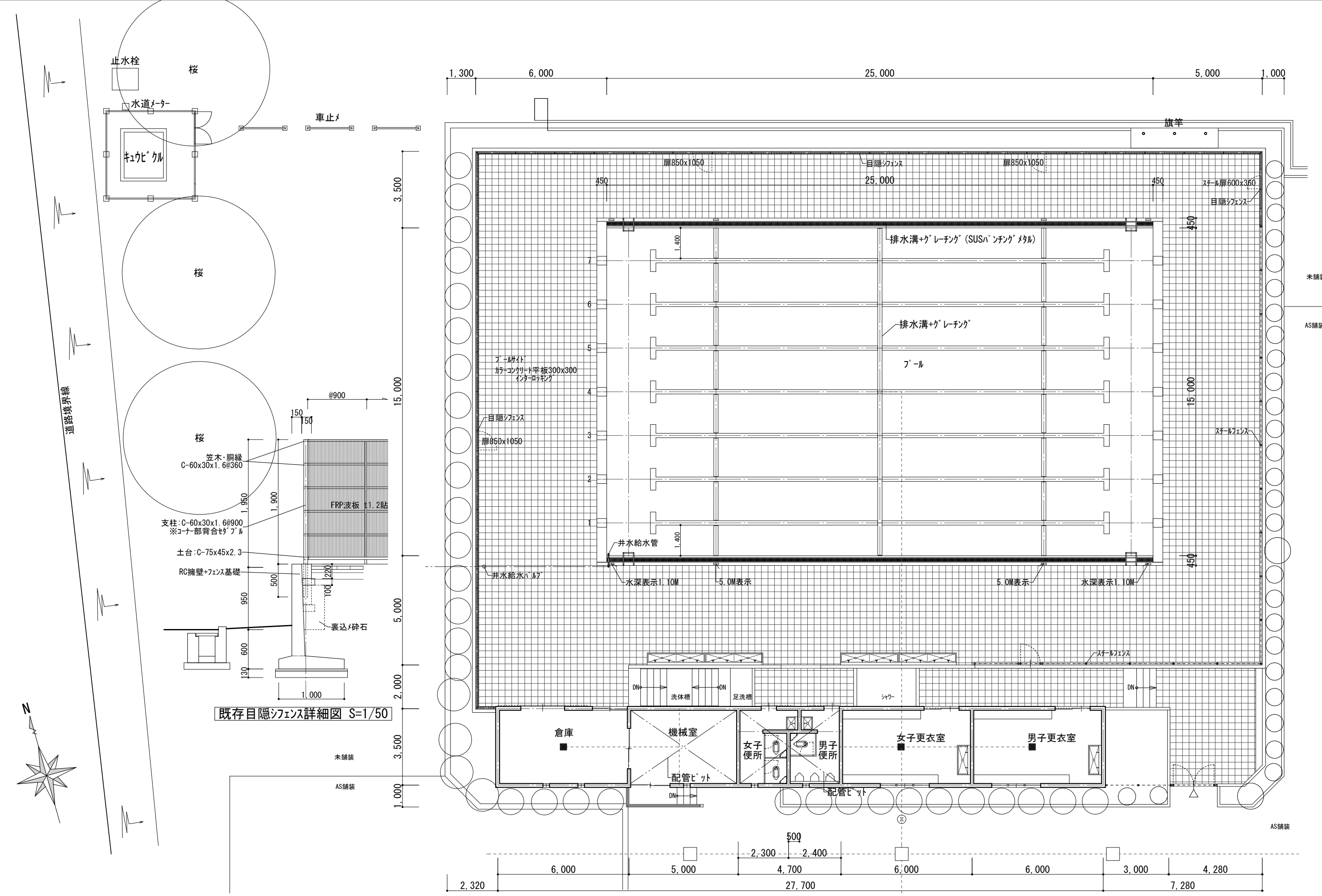
DATE

2022.08

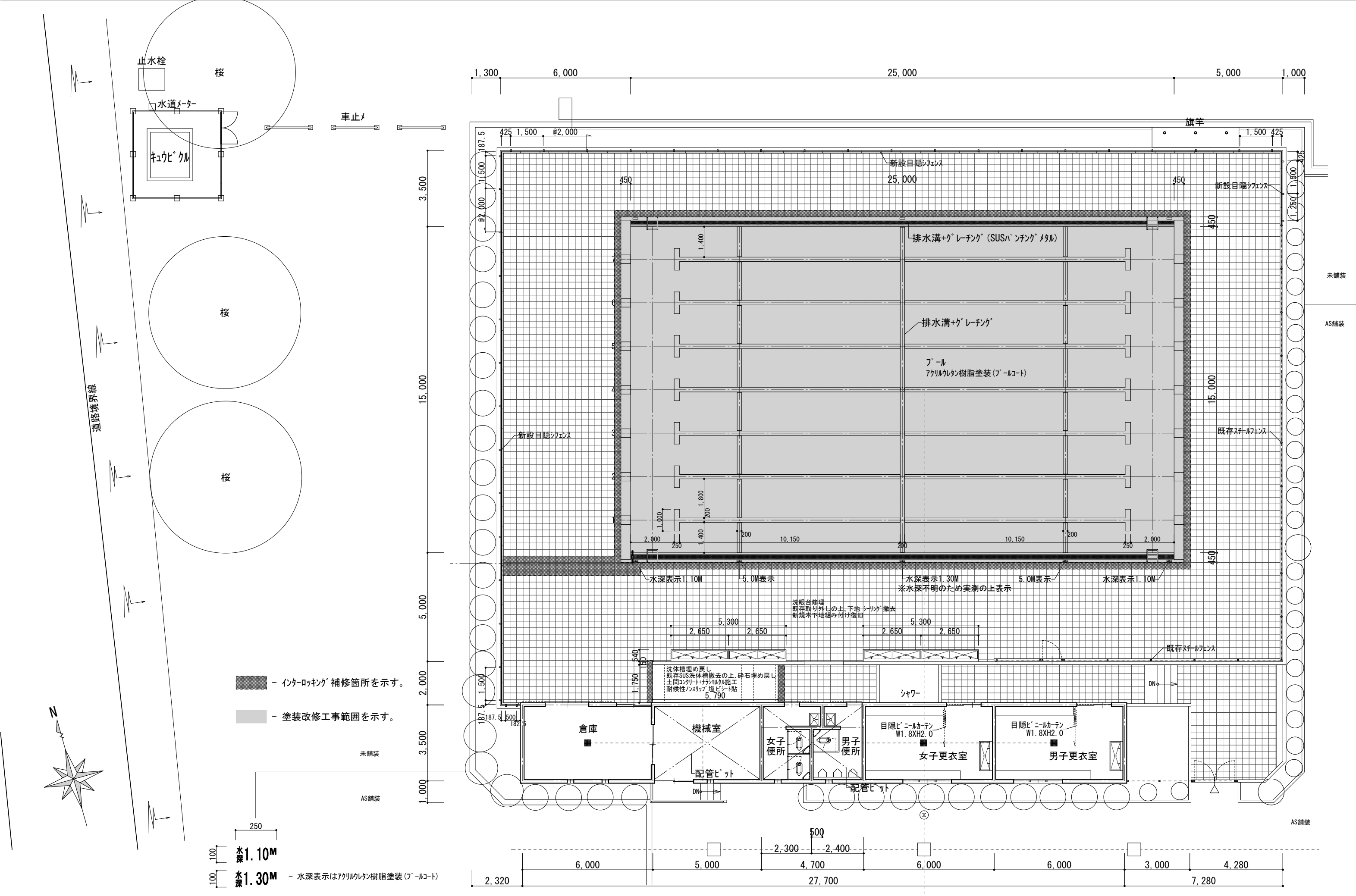
担当

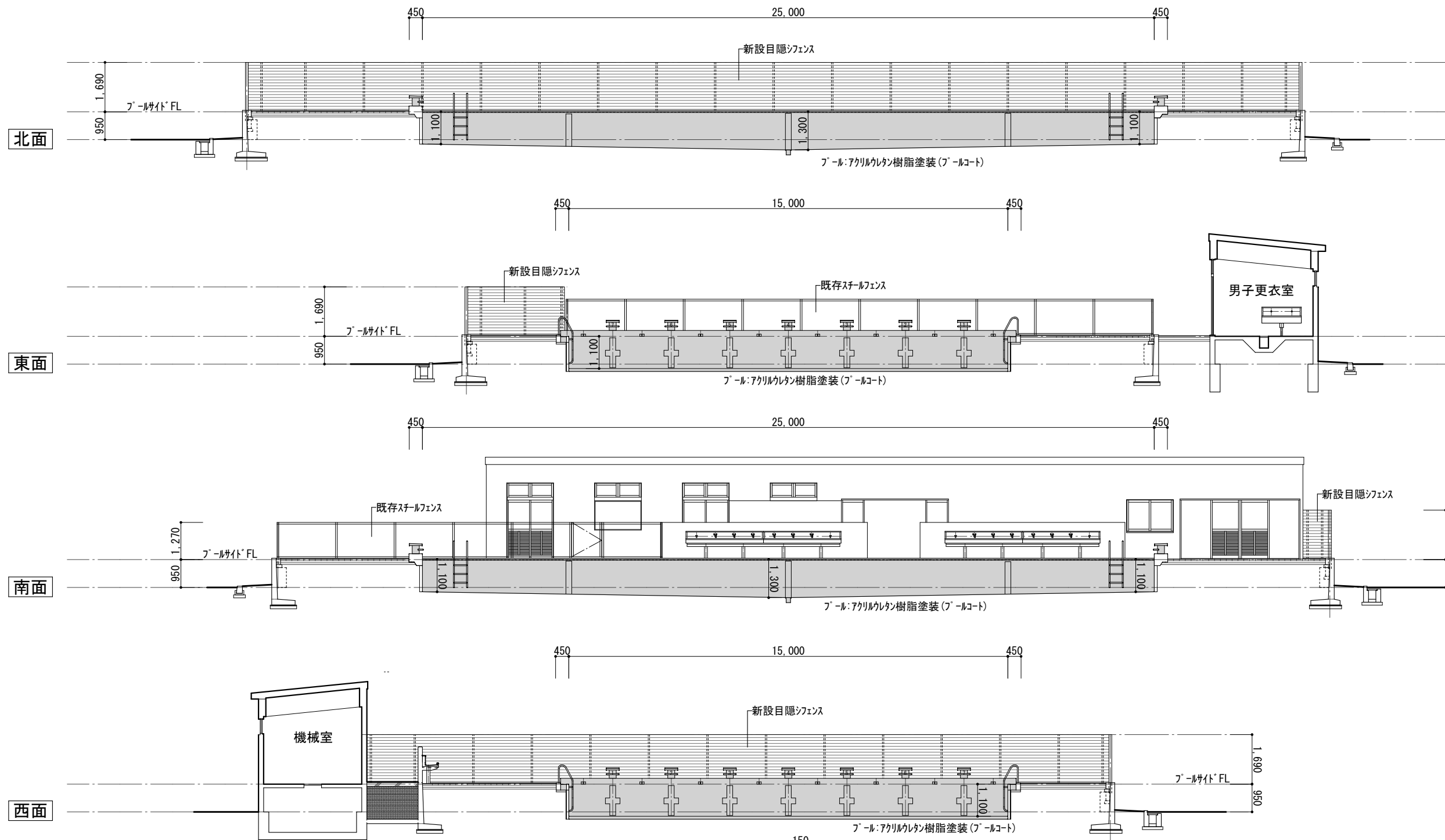
NO

A-06



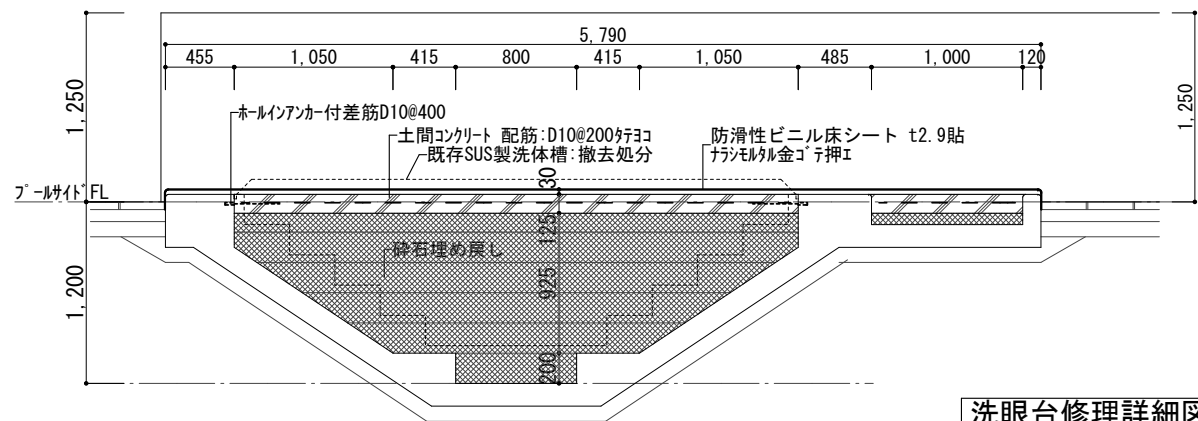
工事名		図面名称		SCALE	DATE	担当	NO	
令和4年度 堀金中学校プール改修工事		既存平面図		1/150	2022.08		A-07	



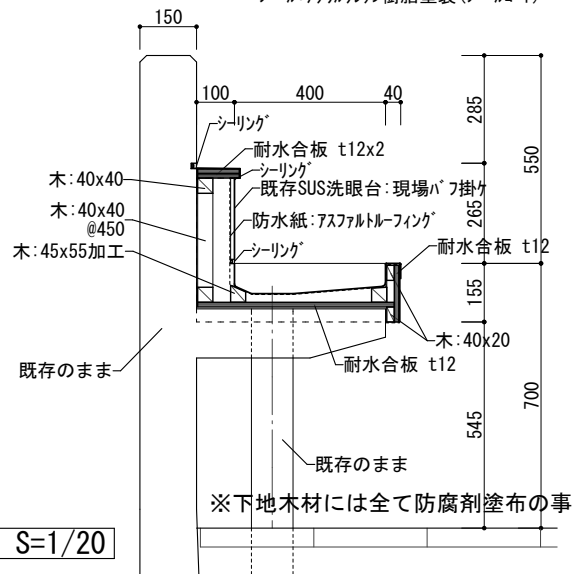


塗装改修工事範囲を示す。

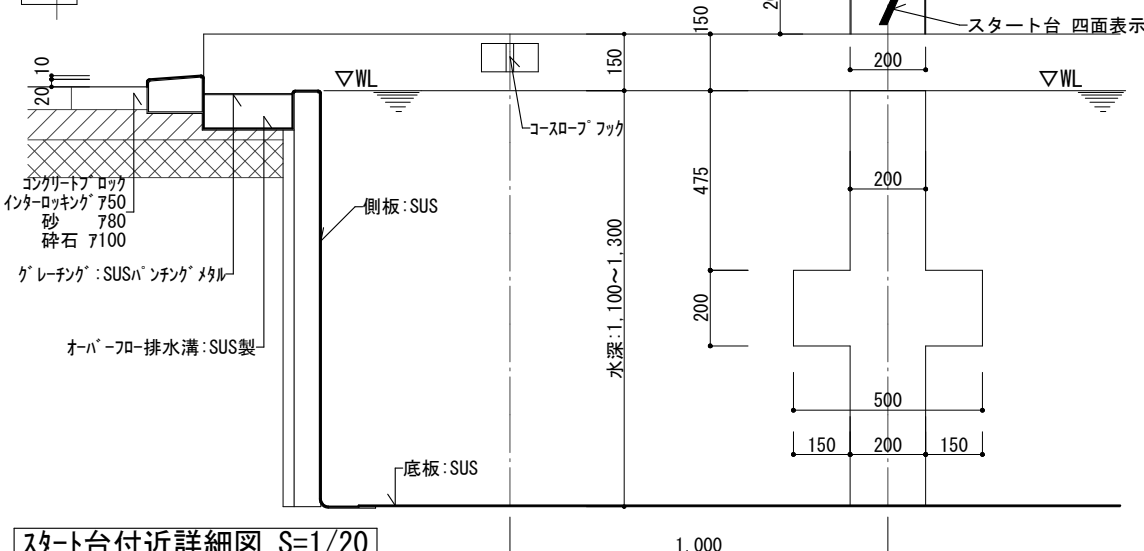
洗体槽 埋め戻し改修詳細図 S=1/50



洗眼台修理詳細図 S=1/20



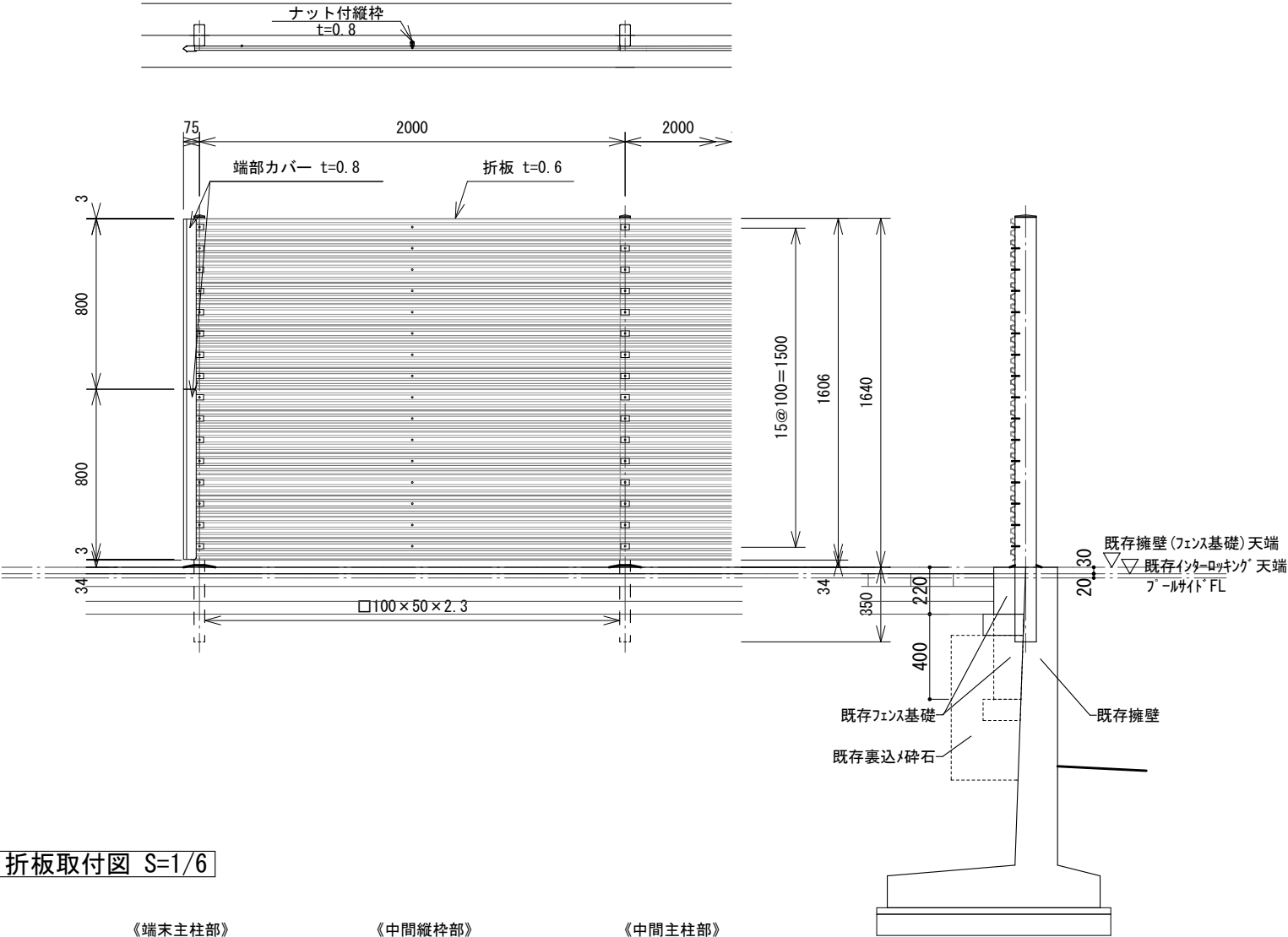
スタート台付近詳細図 S=1/20



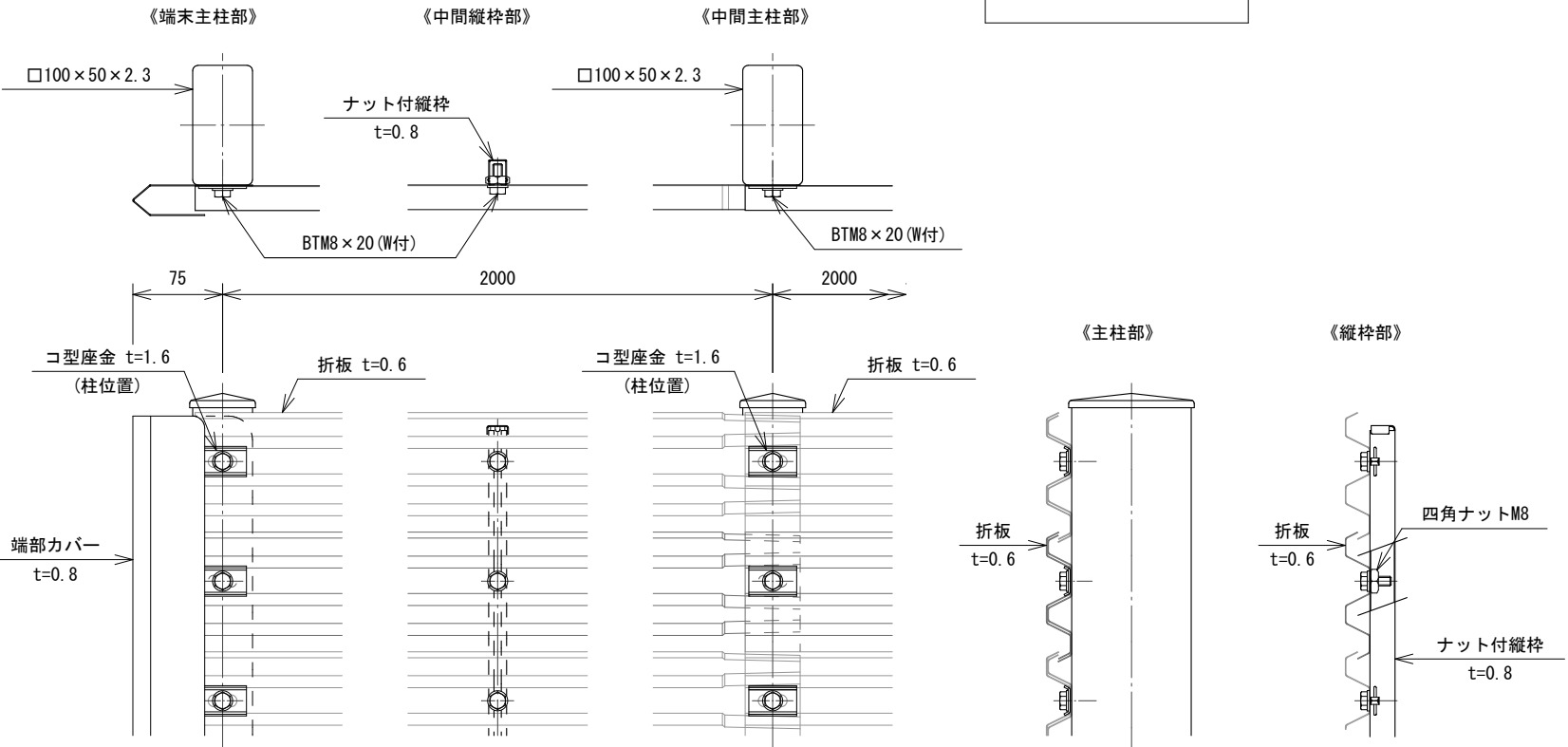
工事名		図面名称		SCALE		DATE		担当		NO	
令和4年度 堀金中学校プール改修工事		展開図・付属品等詳細図		1/150 1/50 1/20		2022.08				A-09	

樹脂コート製 目かくしフェンス S=1/30

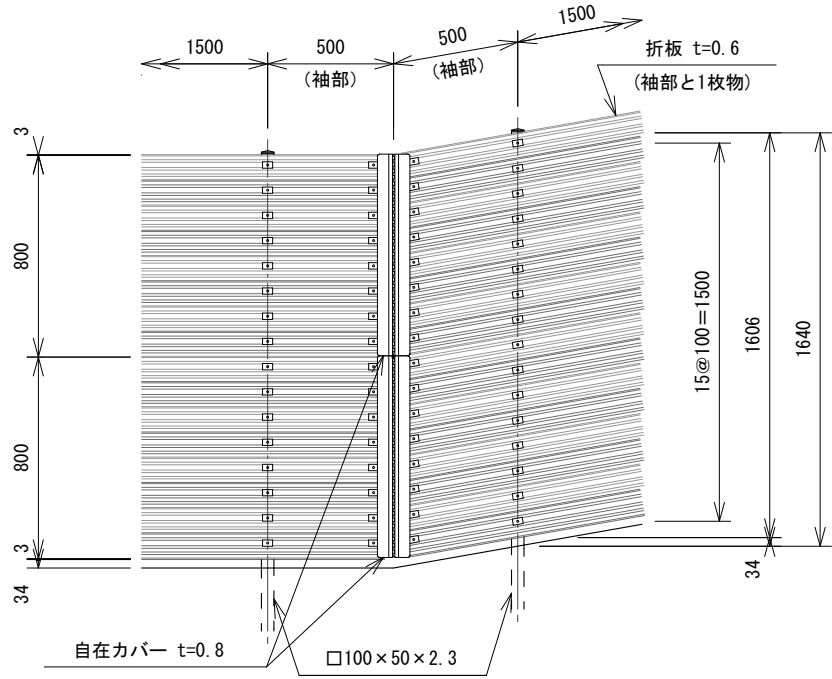
(昭和57年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力 $G L + 0 m$ に依る)



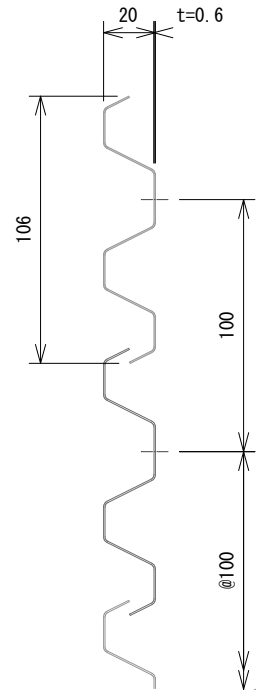
折板取付図 S=1/6



勾配・コーナー変化点処理図



折板断面図 S=1/3



- 設計条件
- 設計荷重・・・昭和57年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力に依る。
- 基礎条件・・・長期許容地耐力 98 kN/m^2 (10 t/m^2)
- 備考
- 外装は亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上高耐候性樹脂粉体塗装とする。但し、ナット付縦枠は亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっき(四角ナットは溶融亜鉛めっき)の上高耐候性樹脂粉体塗装、ボルトは溶融亜鉛めっきの上防錆着色処理とする。

⚠ 注意
袖部横のスパンは1.5mとする。

参考品:朝日目かくしフェンス LV-1600 ルーバータイプ 同等

工事名

令和4年度 堀金中学校プール改修工事

図面名称

目かくしフェンス詳細図

SCALE

1/30
1/6
1/3

DATE

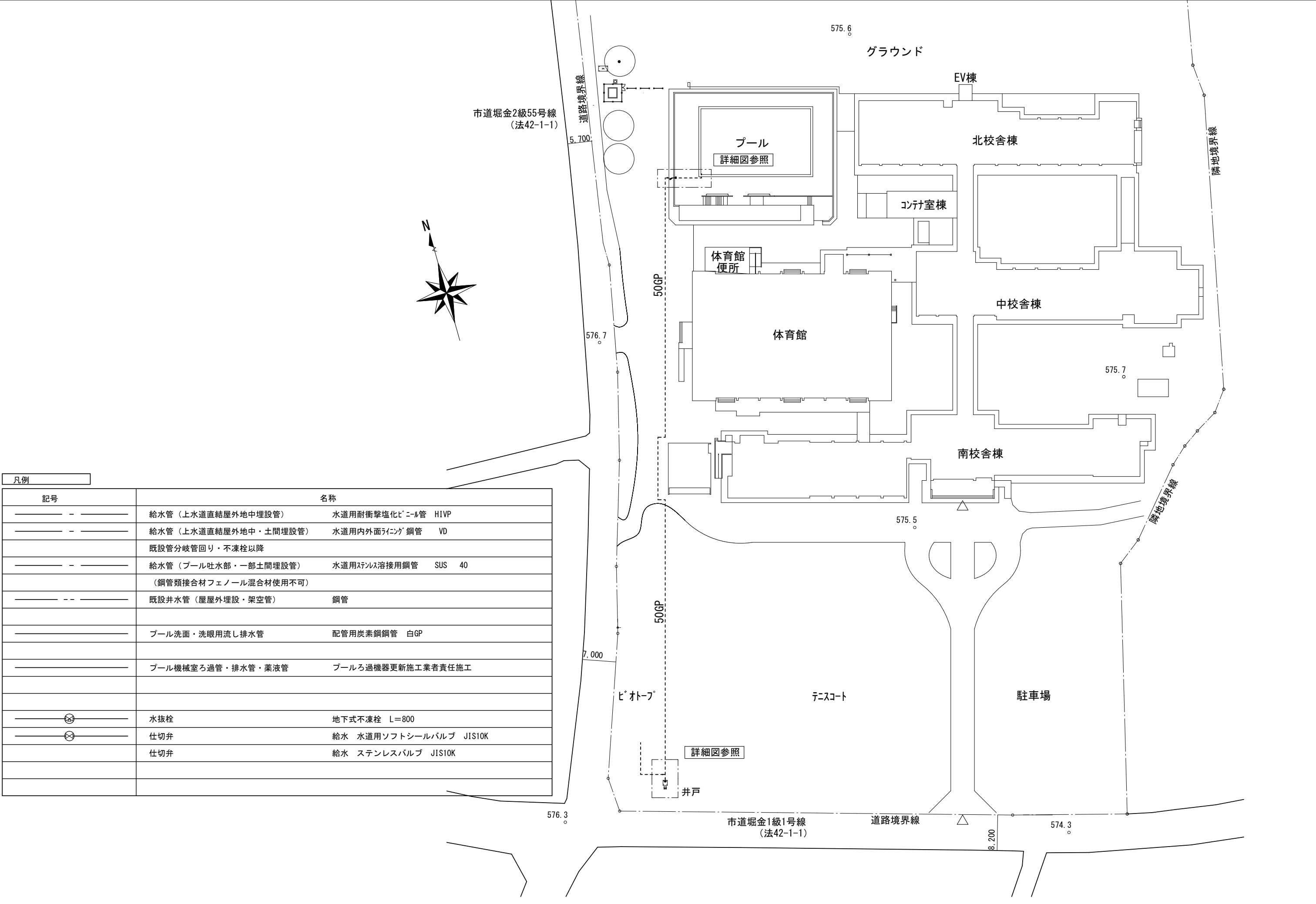
2022.08

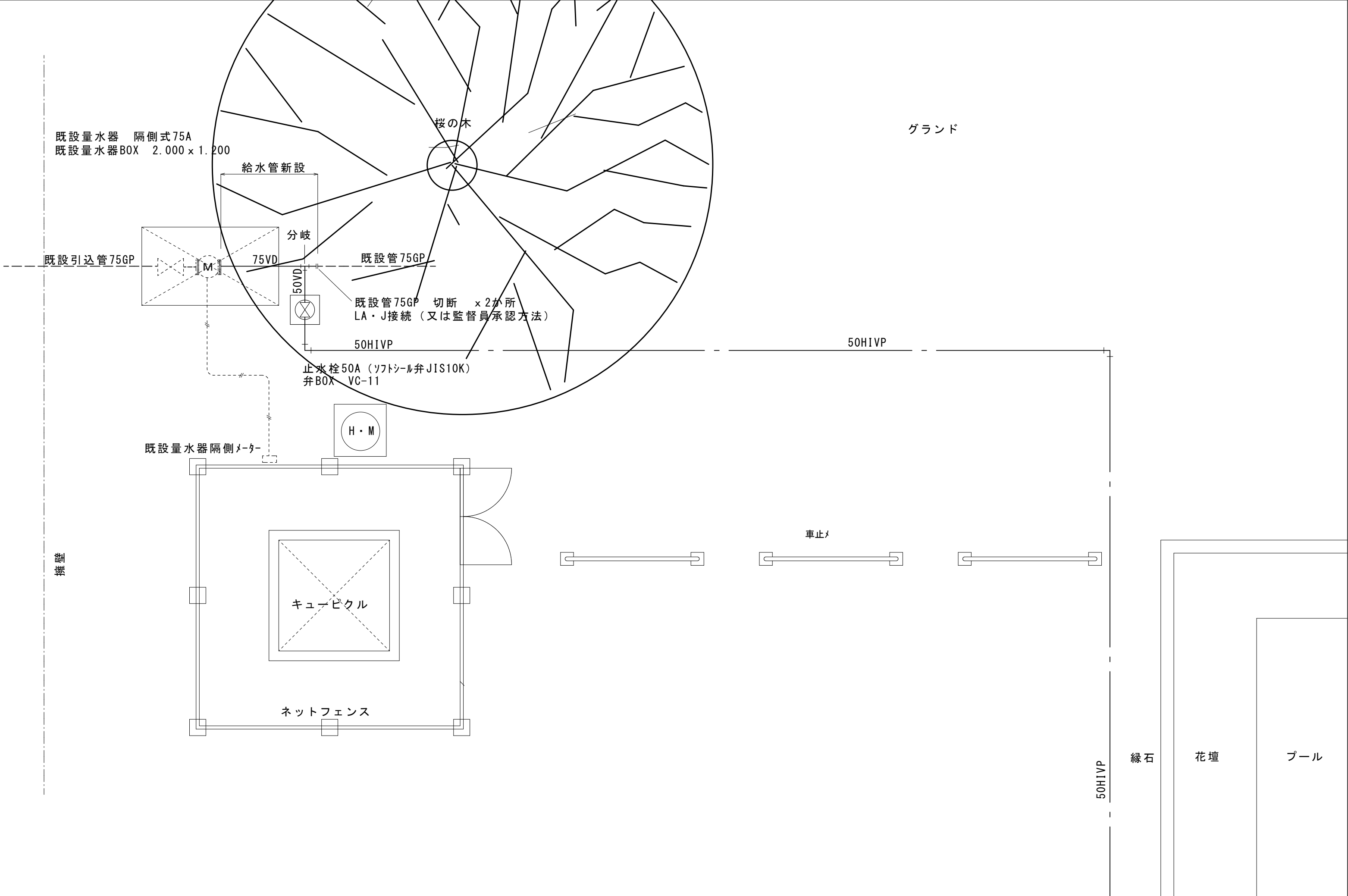
担当

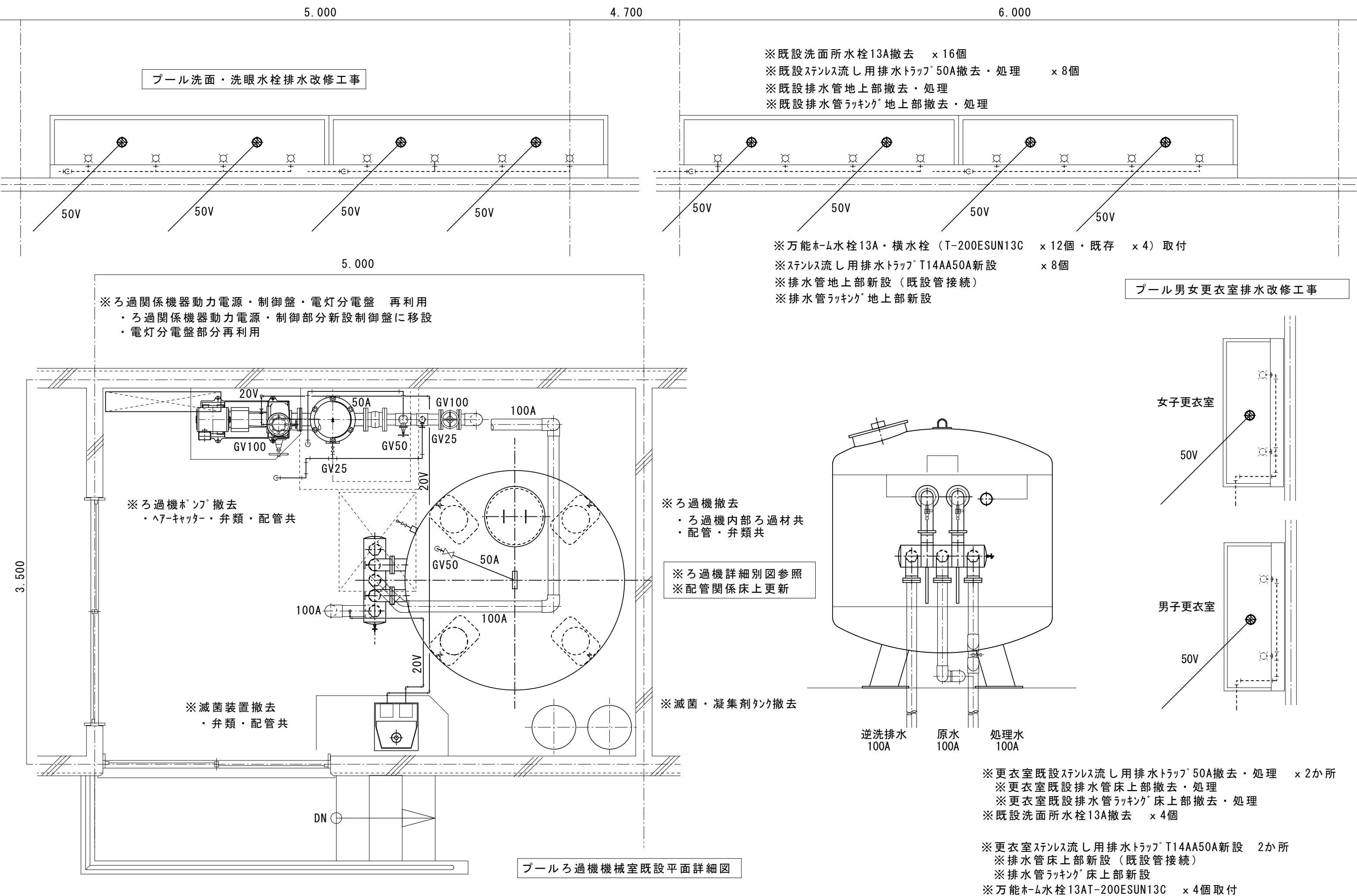
NO

A-10

凡例		
記号	名称	
—— — — — —	給水管（上水道直結屋外地中埋設管）	水道用耐衝撃塩化ビニール管 H1VP
—— — — — —	給水管（上水道直結屋外地中・土間埋設管）	水道用内外面ライニング鋼管 VD
	既設管分岐管回り・不凍栓以降	
—— — — — —	給水管（プール吐水部・一部土間埋設管）	水道用ステンレス溶接用鋼管 SUS 40
	（鋼管類接合材フェノール混合材使用不可）	
—— - - - ——	既設井水管（屋屋外埋設・架空管）	鋼管
—— — — — —	プール洗面・洗眼用流し排水管	配管用炭素鋼鋼管 白GP
—— — — — —	プール機械室ろ過管・排水管・薬液管	プールろ過機器更新施工業者責任施工
—— ⊗ ——	水抜栓	地下式不凍栓 L=800
—— ⊗ ——	仕切弁	給水 水道用ソフトシールバルブ JIS10K
	仕切弁	給水 ステンレスバルブ JIS10K



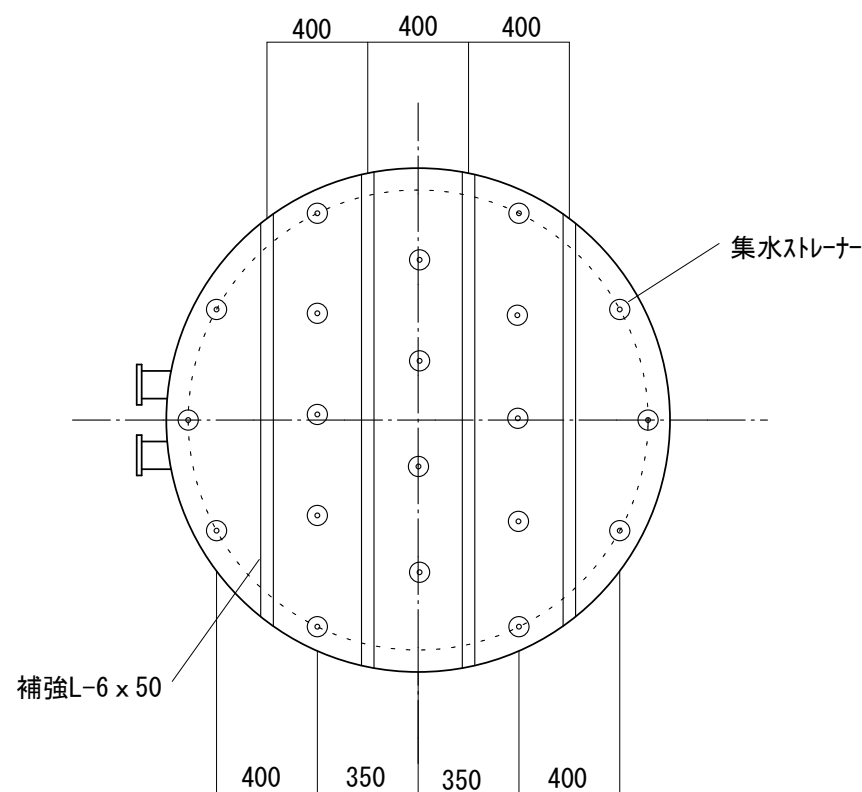
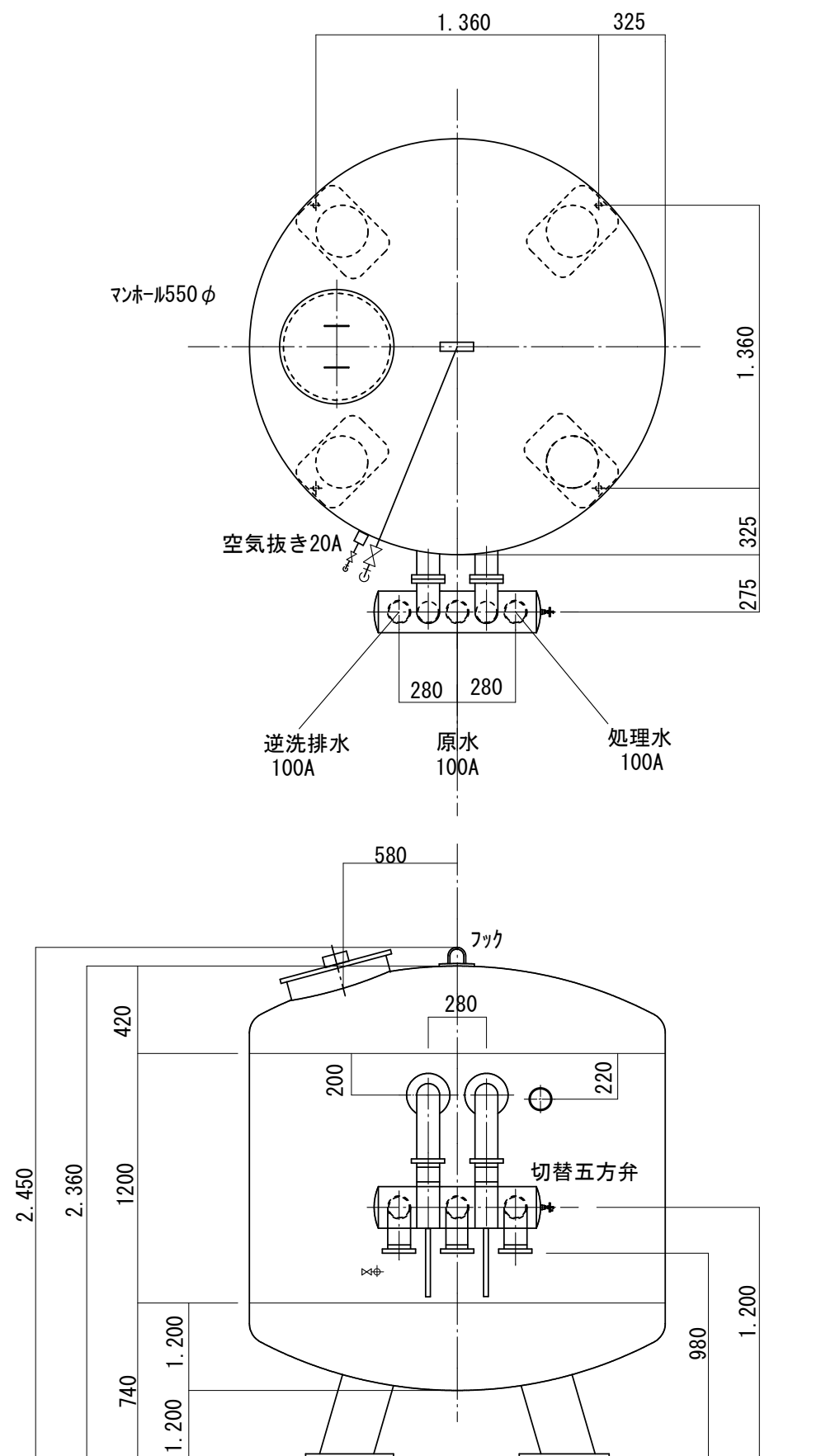




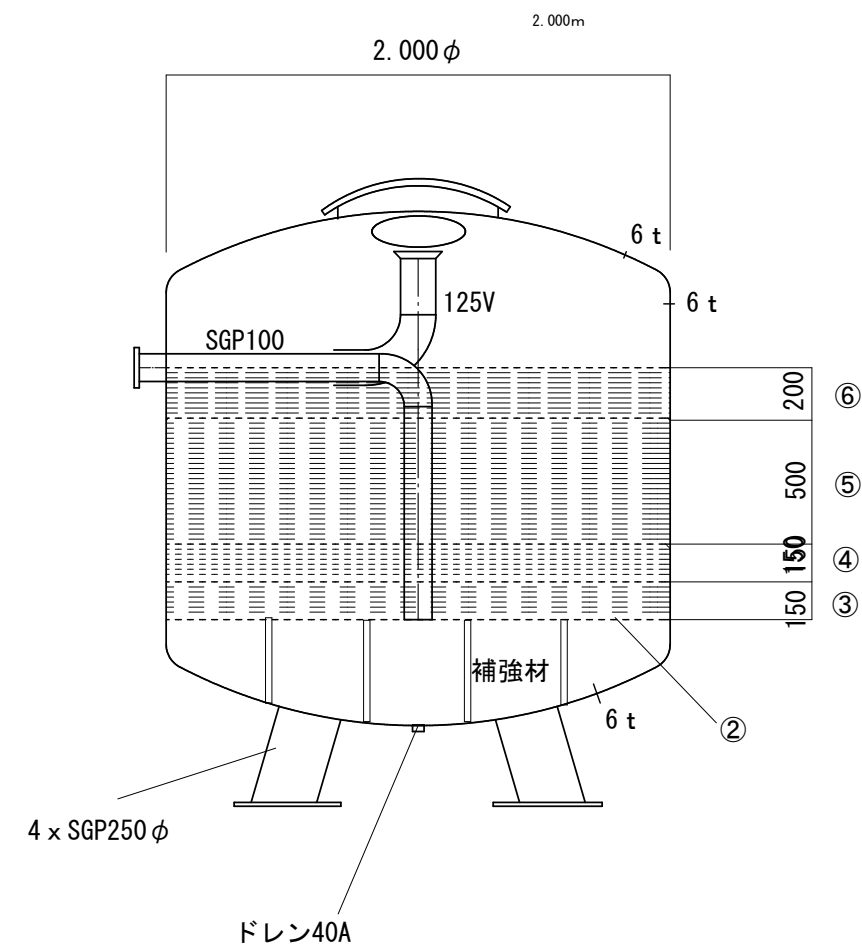
プール洗面・洗眼水栓排水改修工事

プール男女更衣室排水改修工事

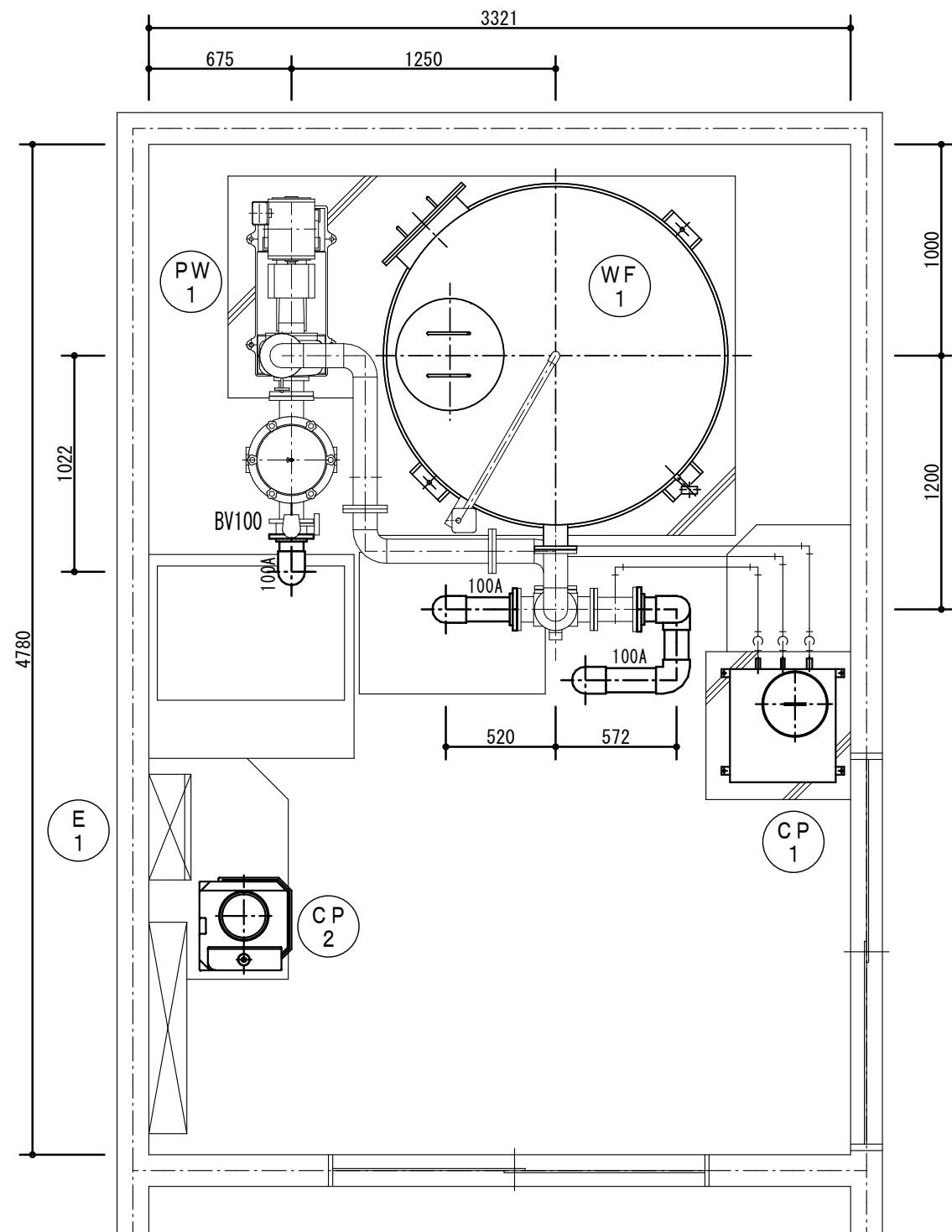
プールろ過機機械室既設平面詳細図



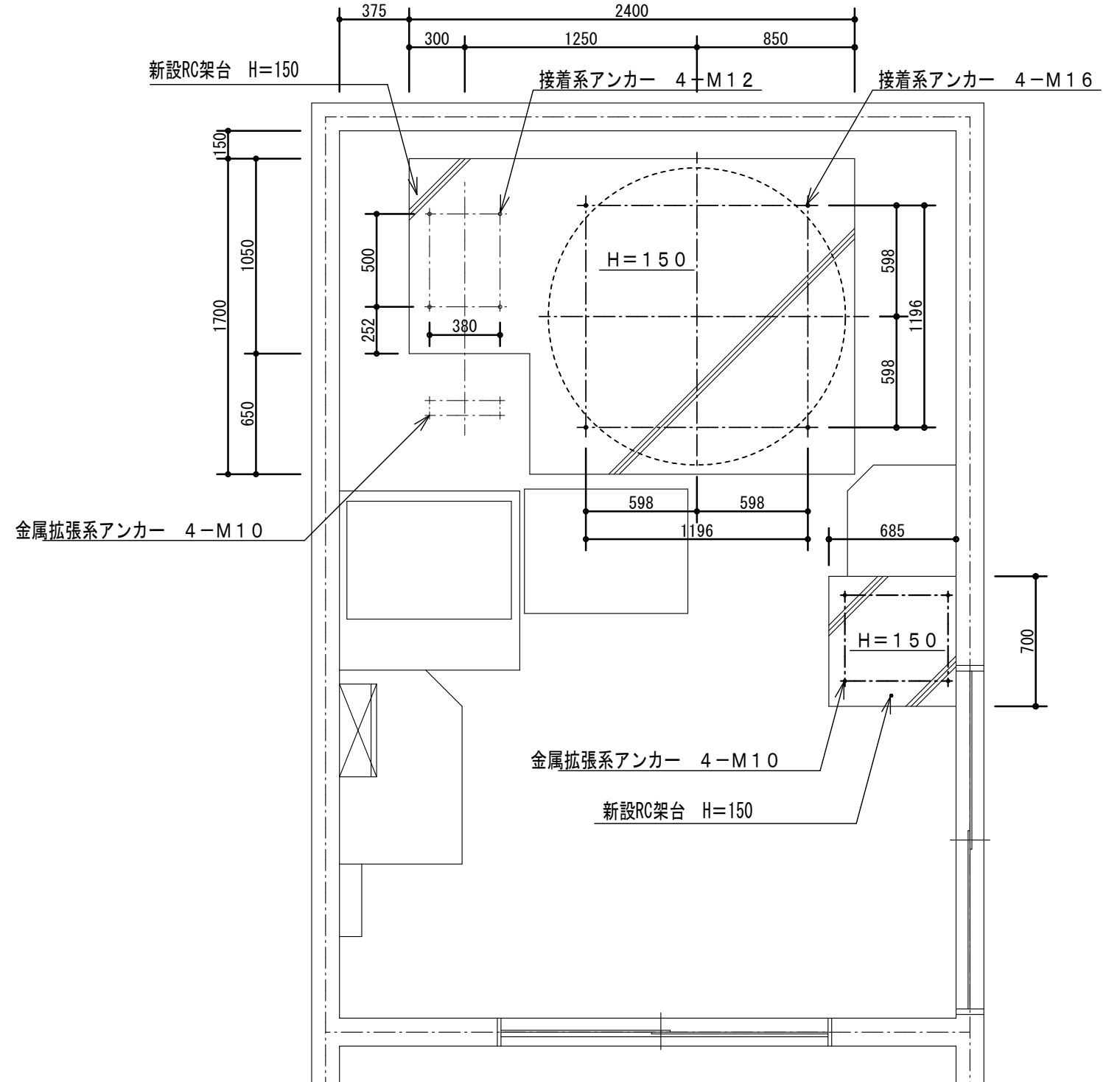
ろ過機処理能力	Q=70m ³ /H A=3.14m ² V=22.29m/H
逆洗水量	1830L/min (V=35m/H)
運転重量	9050Kg (弁類共)
循環ポンプ	自吸式渦巻型 建設省仕様
	125φ×7.5KW×1170L/min×18m 3φ-200V
	防振架台 PX-130Z
H・C	125A×300φ×500L ストレーナー-SUS304
流量計	FLT-RⅢ-100A
滅菌装置	CX1-51型 100IPEタンク
	滅菌剤 次亜塩素酸ソーダ (12%溶液) R=3PPM
	V=24.3ml/min
凝集装置	ZA-11型 100IPEタンク
	凝集剤 ポリ塩化アルミニウム (PAC)
	R=5PPM V=4.9L/min



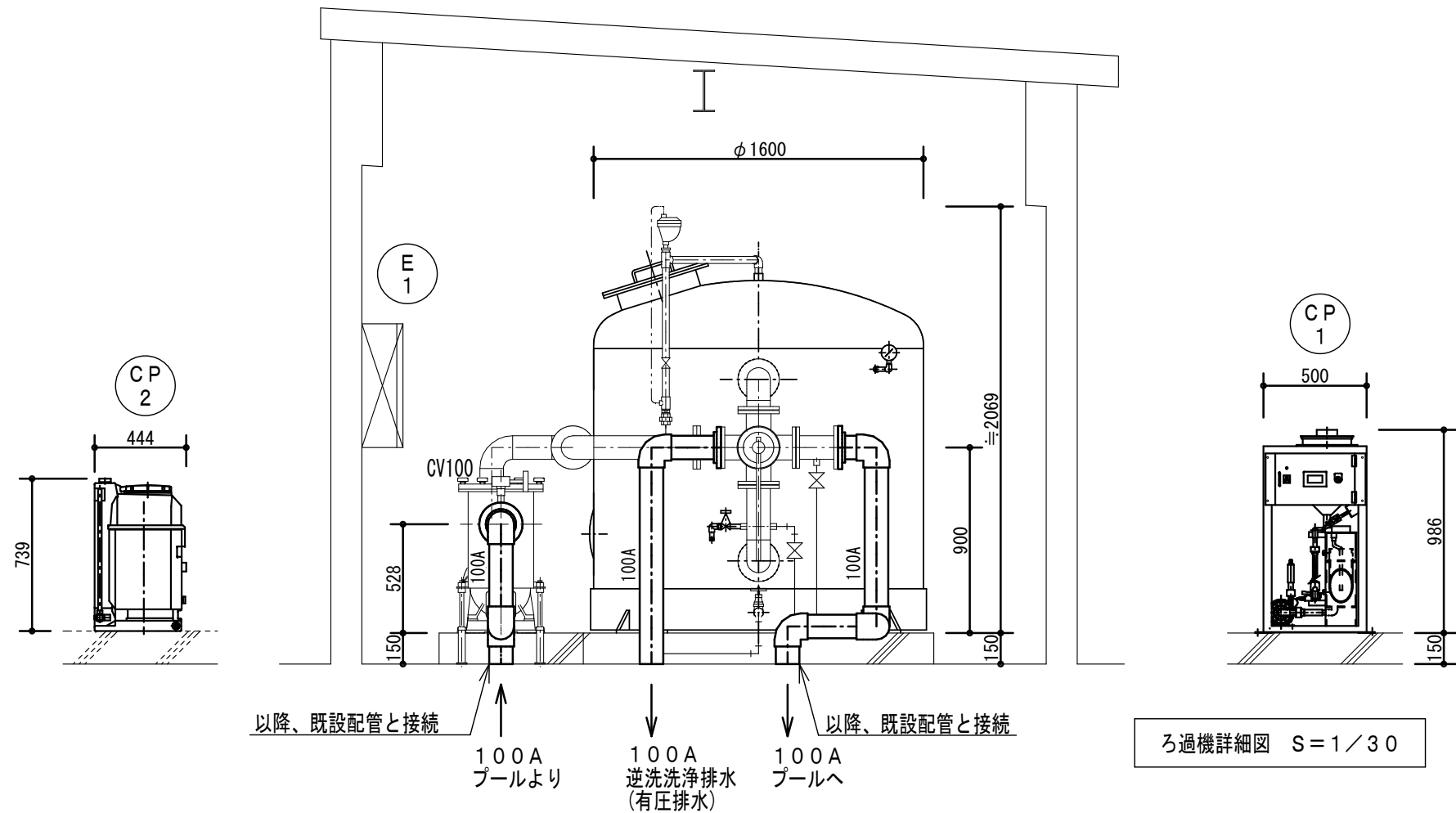
ろ過タンク	胴径2000φ 本体高さ1200
	板厚6.0t Wt1170Kg
③ 支持材	支持砂利 (大) 8-12mm 0.471m ³ (24袋)
④ 支持材	支持砂利 (小) 4-8mm 0.471m ³ (24袋)
⑤ ろ過材	ろ過砂 0.6mm 1.571m ³ (79袋)
⑥ ろ過材	アンササイト 1.2mm 0.629m ³ (21袋)



機械室平面図 S=1/30



基礎図(参考図) S=1/30



記 号	機 器 名 称	機 器 仕 様	数 量	電 動 機		
				相	電 圧	容 量
WF 1	ろ過機	形 式 手動砂ろ過機 ろ過能力 70m ³ /hr 本体 φ1600×1220H×6.0t/4.5t	1			
		内面塗装 エポキシ樹脂塗装 外面塗装 リン酸塩系さび塗料+OP仕上				
		附属品 手動五方向切替弁100A ・圧力計・自動エア抜き・採水口・他弁類等				
PW 1	ろ過逆洗ポンプ	自吸式渦巻型 φ100×1.16m ³ /min×16m モートル 全閉外扇屋内形	1	3φ	200V	5.5KW
		附属品 集毛器100A×100ASUS製(スクリーンSUS304)アクリル製上蓋・入口弁・CV等				
CP 1	自動管理滅菌装置	即溶性顆粒剤溶解式 液晶タッチパネル 附属品 スクリューフィーダー・移送ポンプ・接続配管含む	1	1φ	200V	470W
CP 2	凝集剤注入器	定量パルスポンプ 30mL/min×1.0Mpa 薬液タンク 50L(PE製)	1	1φ	200V	15W
E 1	制御盤	鋼板製屋内壁掛防塵形	1			

